

STAR

取扱説明書・部品表

飼料カッタ

製品コード K70058 ・ K70059
型 式 SFC1810・SFC1830
部品供給型式 SFC1810-04・SFC1830-04

マウントカッタ

製品コード K50077 ・ K50075
型 式 MFC1810・MFC1830
部品供給型式 MFC1810-04・MFC1830-04

コーンシュレッダアタッチメント

製品コード K70063
型 式 ACS1800

モータベースアタッチメント

製品コード K70066
型 式 AMD2310

サポートホイールアタッチメント

製品コード K50079
型 式 ASW3000

- ・ 部品ご注文の際は、必ず部品供給型式をご連絡ください。
- ・ 補用部品の一部には、まとめ・セット販売のみの部品があります。

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

スター農機株式会社

STARR



安全に作業するために

安全に関する警告について

本機には、印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて



危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。



警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。



注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。

 注意	<p>本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 作業に適した、だぶつきのない服装で行ってください。 酒を飲んだとき、疲労、眠気、病気や怪我しているときは、作業をしないで下さい。子供には運転させないで下さい。 本機を運転するときは、周囲の安全を確認して下さい。 運転前には、必ず点検や調整をして下さい。 点検や調整をするときは、必ずPTOなどの動力源を動力停止（エンジン、電源など）してから行って下さい。 点検・調整で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けて下さい。 他人に本機を貸すときは、必ず「取扱説明書」をよく読んでから作業するようすすめて下さい。
---	---

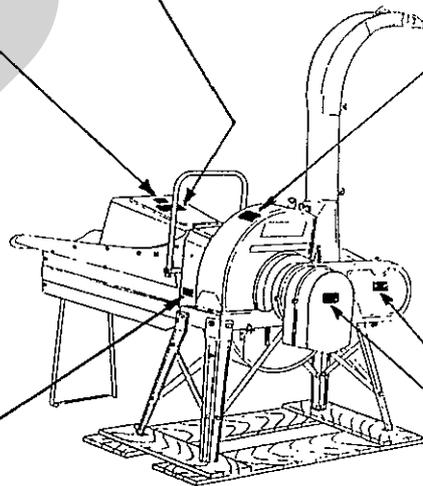
部品番号 106164

 危険	<p>運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。</p> <p>供給口から中には、手を入れないで下さい。</p>
---	---

部品番号 106509

 警告	<p>運転中又は回転中、ケーシングを開けると、回転刃およびファイナイルに接触し、ケガをする事があります。</p> <p>ケーシングを開けないで下さい。</p>
---	---

部品番号 106507



飼料カッター

 注意	<p>運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。</p> <p>カバーを開けないで下さい。</p>
---	---

部品番号 106511

 注意	<p>運転中又は回転中、カバーを開ると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。</p> <p>カバーを開けないで下さい。</p>
---	--

部品番号 106513

 注意	<p>本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 作業に適した、だぶつきのない服装で行って下さい。 酒を飲んだとき、疲労すぎ、病氣や怪我しているときは、作業をしないで下さい。子供には運転させないで下さい。 本機を運転するときは、周囲の安全を確認して下さい。 運転前には、必ず点検や調整をして下さい。 点検や調整をするときは、必ずPTOなどの動力遮断や動力停止（エンジン、電源など）をしてから行って下さい。 点検・調整で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けて下さい。 他人に本機を貸すときは、必ず「取扱説明書」をよく読んでから作業するようすすめて下さい。
---	---

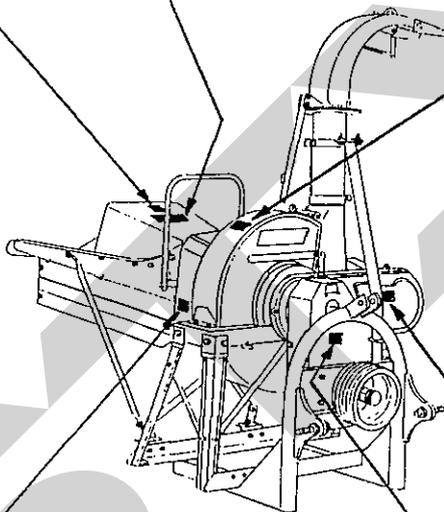
部品番号 106164

 危険	<p>運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。</p> <p>供給口から中には、手を入れないで下さい。</p>
---	---

部品番号 106509

 警告	<p>運転中又は回転中、ケーシングを開けると、回転刃およびフライホイールに接触し、ケガをする事があります。</p> <p>ケーシングを開けないで下さい。</p>
---	--

部品番号 106507



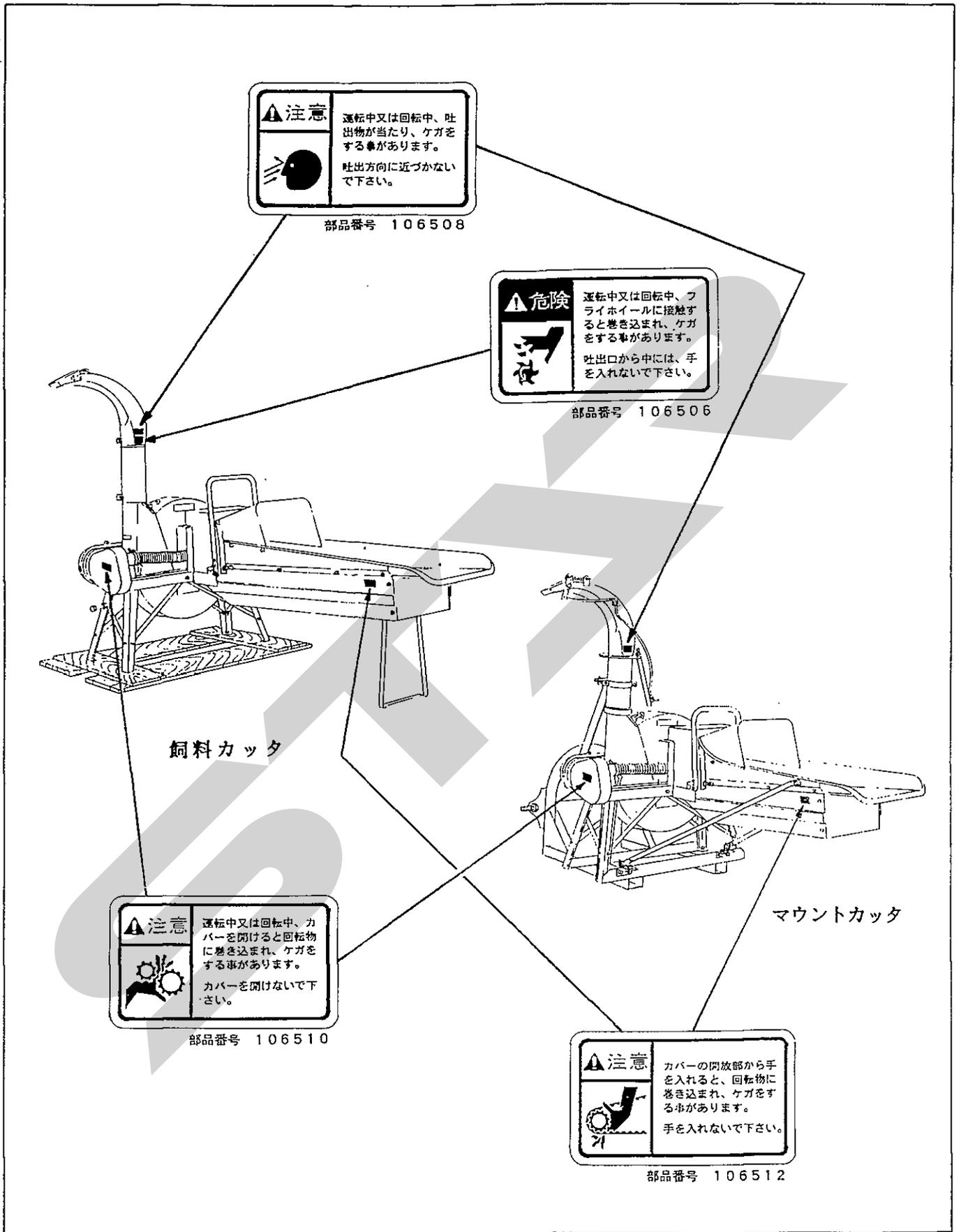
マウントカッタ

 注意	<p>運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。</p> <p>カバーを開けないで下さい。</p>
---	---

部品番号 106511

 注意	<p>運転中又は回転中、カバーを開ると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。</p> <p>カバーを開けないで下さい。</p>
---	--

部品番号 106513



— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業員などへ危険を知らせる大事なものです。
ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。
注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全操作上の注意

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解してからご使用ください。

作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

▲注意

- 機械の取り扱いで分からない事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。取扱説明書は、分からない事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

▲注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

▲警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。次の場合は、運転しないでください。
 - 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
 - 酒を飲んだ時。
 - 機械操作が未熟な人。
 - 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

▲警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。次に示す服装で作業してください。
 - 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。
 - ズボンや上着は、だぶつきのないもの

を着用する。

- ヘルメットを着用する。
- はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸す時は、

▲警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

▲注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械の改造はしないでください。アタッチメントは、当社指定製品を使用してください。部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

▲注意

- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

エンジンを使用する時は

▲危険

- エンジンに燃料を補給する時、くわえタバコや裸火照明の元で行なうと燃料に引火し、ヤケドをする事があります。火気の前で燃料を補給しないでください。

▲警告

- エンジンにプーリを取り付ける時、定められた直径より大きなプーリを取り付けると高速回転によりカッターが破損しケガをする事があります。定められた直径のプーリを取り付けてください。
- エンジンが熱い間に、給油すると引火しヤケドをすることがあります。熱い間は給油しないでください。

▲注意

- エンジン側プーリを防護しないで運転すると巻き込まれケガをすることがあります。

カバーなどで防護してください。

- カッタに動力を伝達するベルトを防護しないで運転すると巻き込まれケガをする事があります。

カバーあるいは柵などで防護してください。

- エンジンの周囲に可燃物を置くと引火し火災を起こすおそれがあります。

可燃物は置かないでください。

エンジンを始動する時は

▲警告

- クラッチを切らないでエンジンを始動すると、急にカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。クラッチを切ってから始動してください。
- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になる事があります。窓、戸などを開け、十分に換気してください。

モーターを使用する時は

▲警告

- モーターにプーリを取り付ける時、定められた直径より大きなプーリを取り付けると高速回転によりカッタが破損しケガをする事があります。定められた直径のプーリを使用してください。

▲注意

- モーター側プーリを防護しないで運転すると巻き込まれてケガをする事があります。カバーなどで防護してください。
- カッタに動力を伝達するベルトを防護しないで運転すると巻き込まれてケガをする事があります。カバーあるいは柵などで防護してください。
- ぬれた手でプラグあるいはモーター側結線部に接触すると感電する事があります。ぬれた手でさわらないでください。

トラクタを使用する時

▲警告

- トラクタにマウントカッタを着脱するためにトラクタを移動させる時、トラクタとマウントカッタの間に人がいると、挟まれてケガをする事があります。トラクタとマウントカッタの間に人を近づけないでください。

▲注意

- マウントカッタをトラクタに着脱する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。

平坦で地盤のかたい所で行なってください。

- 装着するトラクタによっては、前輪過重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。

トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

パワージョイントを使用する時は

▲危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。損傷したらすぐに取り替えてください。使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けずに使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲注意

- 最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをする事があります。最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きることがあり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。適正な重なり量で使用してください。
- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをする事があります。溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

公道走行時は作業機の装着禁止

▲注意

- トラクタに作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。トラクタに作業機を連結しての走行はしないでください。

トラクタを始動する時は

▲警告

- エンジンを始動する時、トラクタの横やステップに立ったまま行くと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。
- エンジンを始動する時、主変速レバーを「N」（中立）にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。主変速レバーを「N」（中立）にして行ってください。
- PTO及びカッタのクラッチを切らないでエンジンを始動すると、急にマウントカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。PTO及びカッタのクラッチを切ってから始動してください。
- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になる事があります。窓、戸などを開け、十分に換気してください。

トラクタで移動走行する時は

▲危険

- 移動走行する時、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

▲警告

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。トラクタには、運転者以外の人を乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。急制動・急旋回はしないでください。
- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。低速走行してください。
- 旋回する時、作業機が旋回方向とは逆方向にふくれるため、周囲の人に接触しケガをさせたり、対向物・障害物に衝突し、ケガ

をする事があります。

周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間隔を保ってください。

- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こす事があります。路肩は走行しないでください。
- 高低差の大きい段差を乗り越えようとする時、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。あゆみ板を使用してください。
- マウントカッタの上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の人へケガを負わせる事があります。マウントカッタの上には、人や物などはのせないでください。

▲注意

- マウントカッタへの動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。移動走行する時は、PTOを切ってください。

作業中は

作業する時は

▲危険

- 運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。供給口から中には、手を入れないでください。
- 運転中又は回転中、フライホイールに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。吐出口から中には、手を入れないでください。

▲警告

- 運転中又は回転中、ケーシングを開けると、回転刃およびフライホイールに接触し、ケガをする事があります。ケーシングを開けないでください。
- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- カッタ指定の回転速度を越えて作業すると、カッタの破損により、ケガをする事があります。指定回転速度を守ってください。

- カッタの上に人が乗ったり物を載せるとケーシング等が変形し、フライホイールでケーシング等を破損し、ケガをすることがあります。
カッタの上に人が乗ったり、物を載せたりしないでください。
- ハウス内などの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になる事があります。
窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

▲注意

- 運転中又は回転中、吐出物が当たり、ケガをする事があります。
吐出方向に近づかないでください。
- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
カバーを開けないでください。
- カバーの開放部から手を入れると、回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
手を入れないでください。
- カッタあるいはマウントカッタの調整や、付着物の除去などを行う時、動力を切らずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。動力を切り、回転部がとまっていることを確かめ行ってください。

トラクタから離れる時は

▲警告

- トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。
- トラクタから離れる時、マウントカッタをあげたままにしておくと、第三者の不注意により不意に降下し、ケガをする事があります。
下限まで降ろしてからトラクタを離れてください。

作業が終わったら

機体を清掃する時は

▲注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをする事があります。
動力を切り、回転部がとまっている事を確かめて行ってください。

終業点検の励行

▲注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。
作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 3点リンクでマウントカッタを持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。
トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

不調処置・点検・整備をする時

▲注意

- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。
取扱説明書に基づき処置してください。
- 動力を切らずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
動力を切って、回転部がとまっている事を確かめて行ってください。
- マウントカッタをあげた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをする事があります。
下に入る時は、台などで降下防止をして行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
元通りに取り付けてください。

も く じ

▲ 安全に作業するために

安全に関する警告について	1	作業が終わったら	7
作業前に	4	不調処理・点検・整備をする時	7
作業中は	6		

1 据え付け又はトラクタへの装着

1 各部の名称とはたらき	10	4 据え付け又はトラクタへの装着	17
2 適応原動機又は適応トラクタの範囲	14	1. 据え付け	17
		《SFC1810・1830飼料カッタの場合》	
3 組立部品	14	2. 3点リンクへの連結	18
1. 解 梱	14	《MFC1810・1830マウントカッタの場合》	
2. 組立部品の明細	14	5 パワージョイントの装着	18
3. 組立要領	14	《MFC1810・1830マウントカッタの場合》	
4. オプション品の組立要領	16	1. 長さの確認方法	19
		2. 切断方法	19
		3. 安全カバーの脱着方法	19
		4. パワージョイントの連結	20

2 運転を始める前の点検

1 運転前の点検	20	3. 製品本体の点検	21
1. 原動機又はトラクタ各部の点検	20	2 原動機又はトラクタエンジン始動での点検	21
2. 連結部の点検	20		
《MFC1810・1830マウントカッタの場合》		1. 原動機又はトラクタエンジン始動	
(1) 3点リンクの連結部点検	20	での点検	22
(2) パワージョイントの点検	20	2. 常用回転数	22
		3 給油箇所一覧表	22

3 作業の仕方

1 本製品の使用目的	24	3 作業要領	25
2 各部の調整	24	4 運搬	27
1. 切断長さの調整	24		
2. コンベヤの張り調整	24		
3. ナイフと受刃の隙間調整	24		

4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ	27	2 長期格納する時	28
-----------	----	-----------	----

5 点検と整備について

1 点検整備一覧表	29
-----------	----

6 不調時の対応

1 不調処置一覧表	30
-----------	----

7 部品表

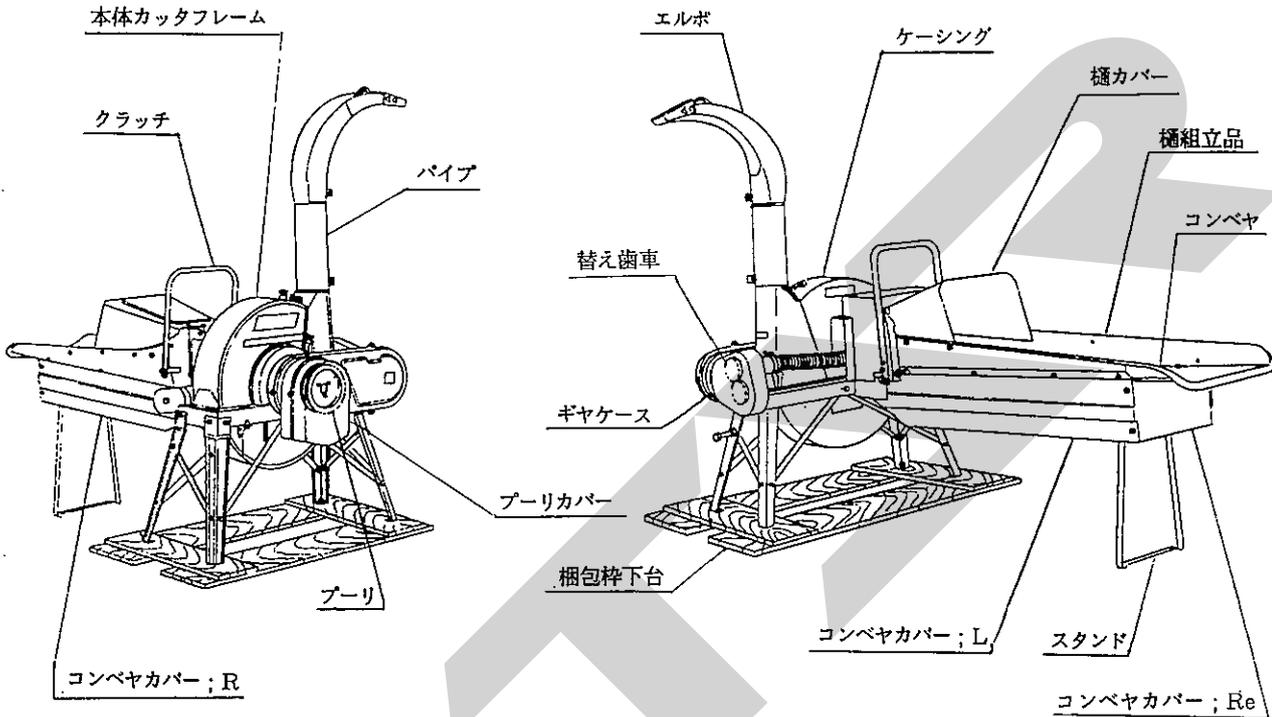
型式・仕様について	44
-----------	----

1 据え付け又はトラクタへの装着

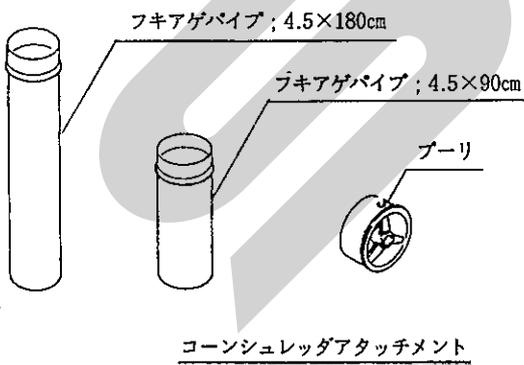
適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき

《飼料カッタの場合》

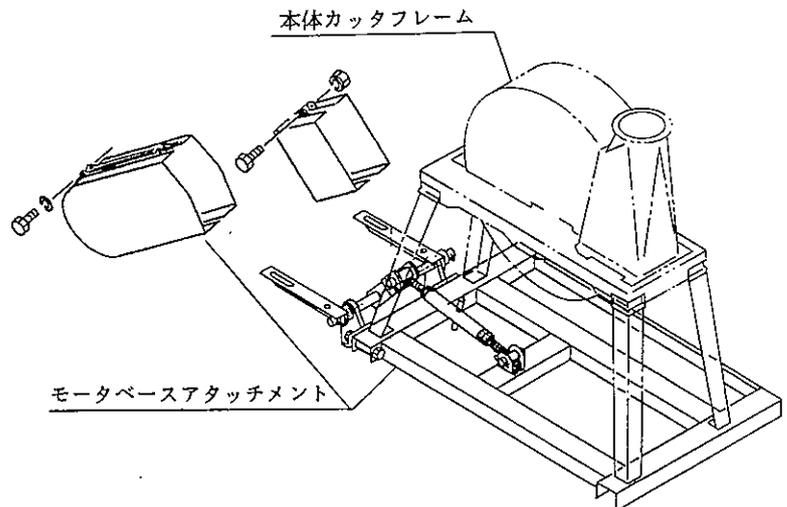
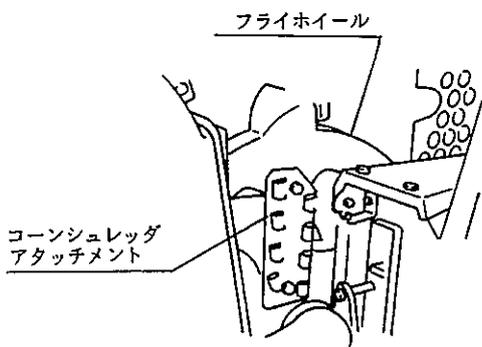


〔オプション〕

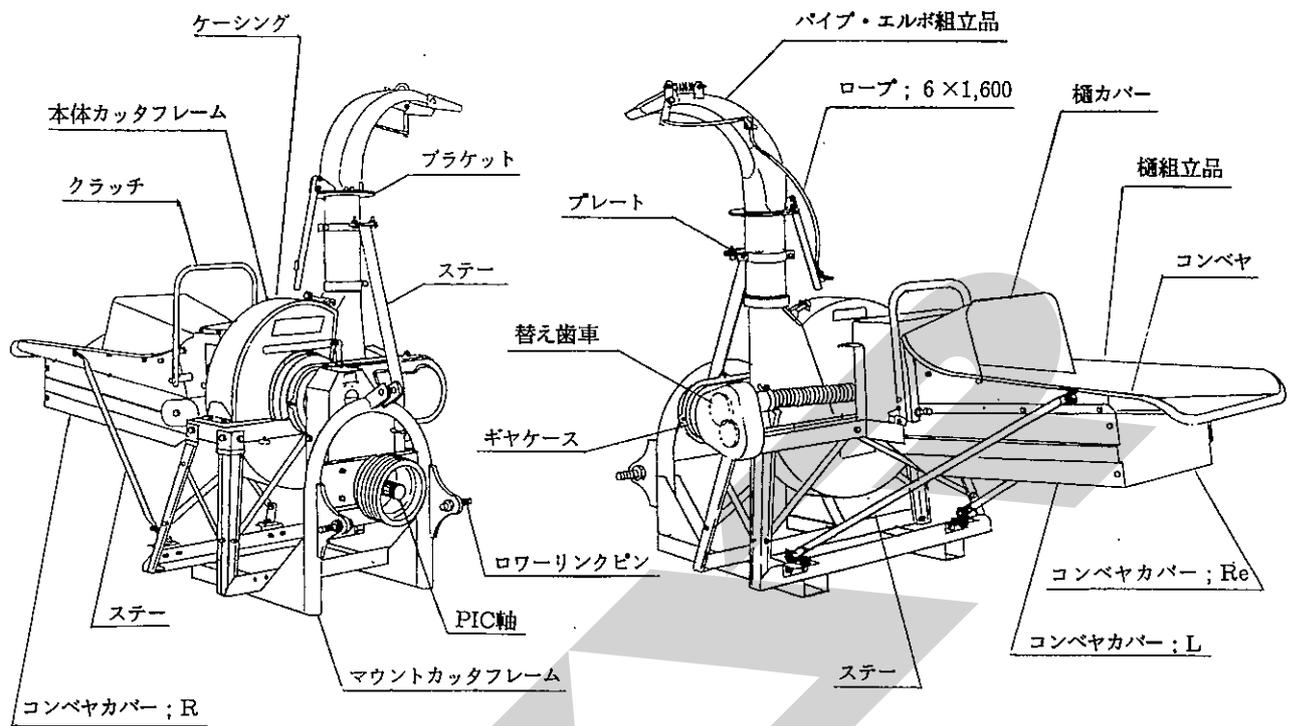


コーンシュレッダアタッチメント

モータベースアタッチメント

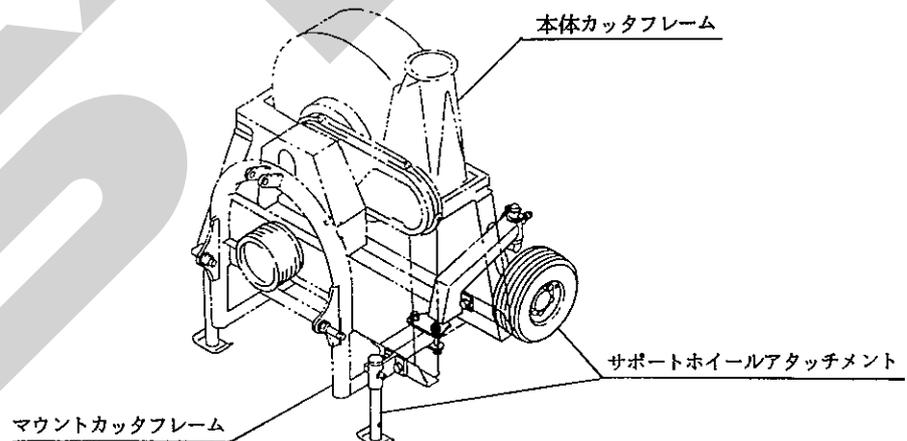


《マウントカッタの場合》



〔オプション〕

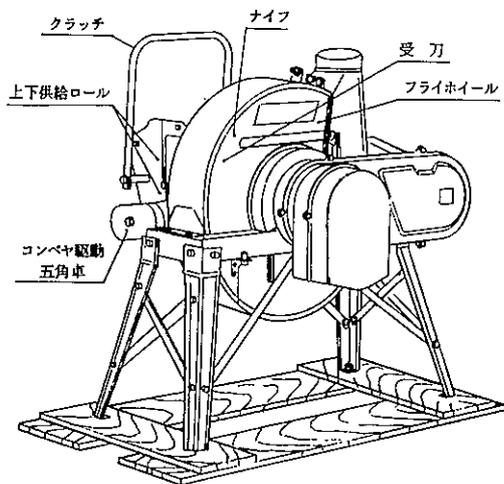
サポートホイールアタッチメント



1. 本体カッタフレーム

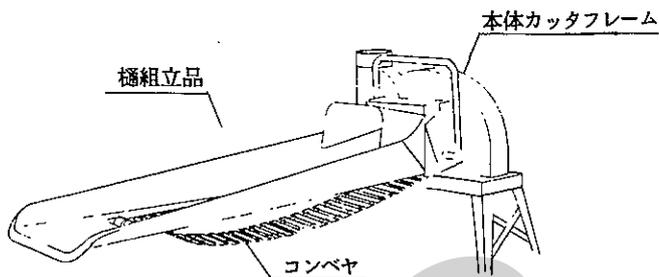
飼料細断物の供給・切断・吹き上げ・放出を行うところです。

コンベヤ駆動五角車・上下供給ロール・ナイフ・受刃・フライホイール・クラッチが装備されています。



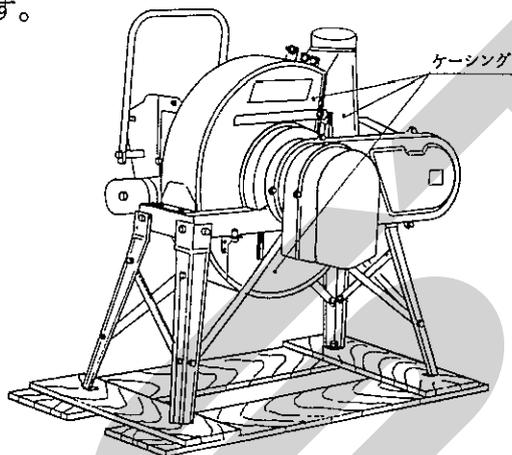
4. コンベヤ

飼料細断物を本体カッタフレーム内に送り込みます。



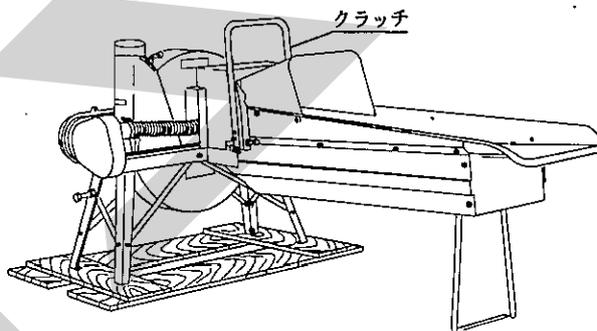
2. ケーシング

飼料細断物の飛散を防ぐとともにフライホイール・ナイフ・受刃の防護・カバーをかねています。



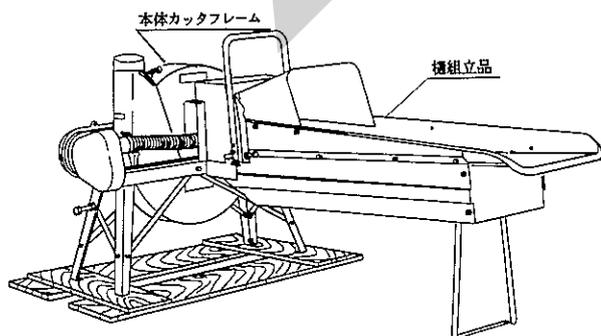
5. クラッチ

コンベヤの進行方向及び上下供給ロールの回転方向（前進・停止・後退）を切替えます。



3. 標組立品

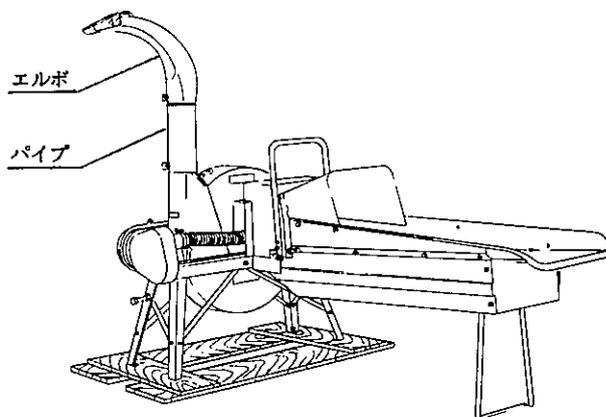
本体カッタフレーム内に供給しやすいよう飼料細断物を乗せるところです。



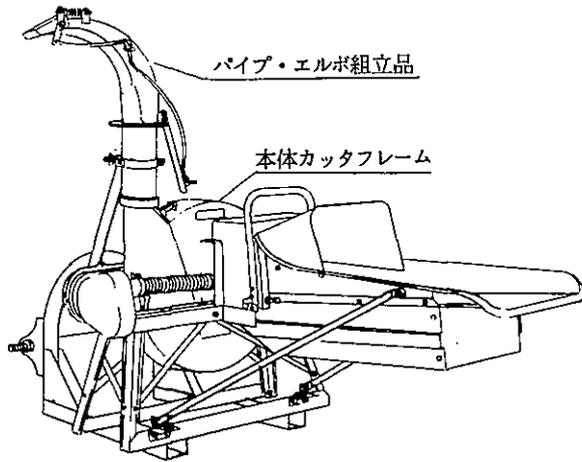
6. パイプ・エルボ

本体カッタフレーム内で切断・吹き上げされた飼料細断物を飛散させず所定の場所に放出させます。

《飼料カッタの場合》

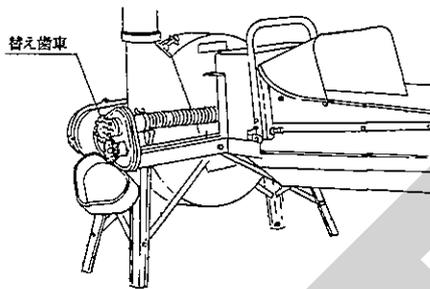


《マウントカッタの場合》



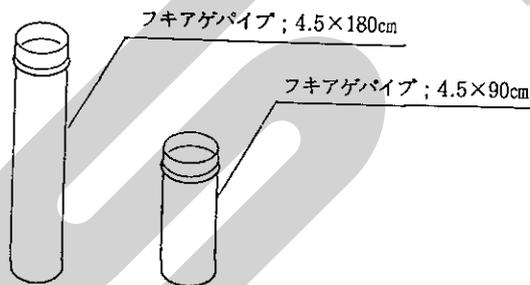
7. 替え歯車

飼料細断物の切断長さを歯車の組合せで替えます。



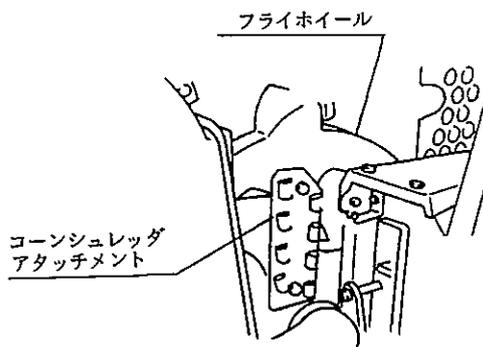
8. フキアゲパイプ [オプション]

飼料細断物をサイロなど高い場所まで吹き上げ放出する場合の延長パイプです。



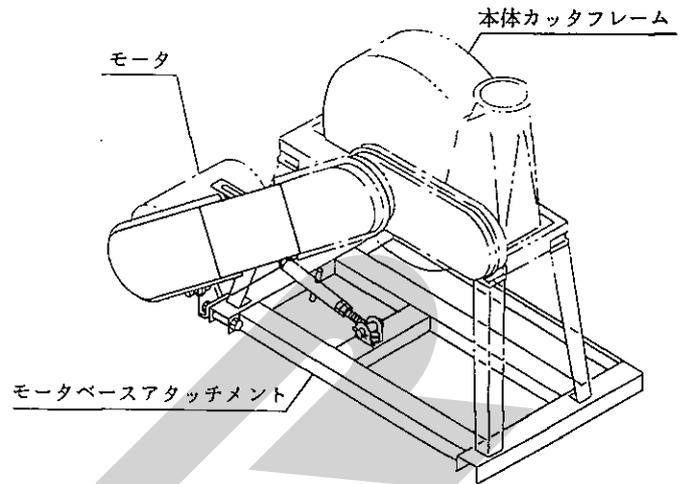
9. コーンシュレッダアタッチメント [オプション]

デントコーンの実及び茎が破碎しやすいように実の芯・茎にみぞを入れる縦刃です。



10. モータベースアタッチメント [オプション]

本体カッタフレーム (右側方) にモーターを組み込み据え付けができます。(飼料カッタに装着可能)

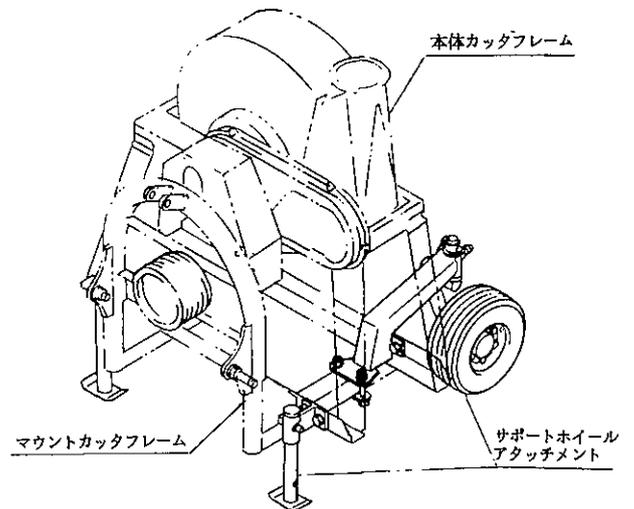


11. サポートホイールアタッチメント [オプション]

(マウントカッタに装着可能)

装着するトラクタによっては前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定になることがあります。サポートホイールアタッチメントをマウントカッタフレーム部に取付けるとけん引で移動ができます。

尚、サポートホイールアタッチメントを取付けるとフロントウェイトを取り付ける必要はありません。



2 適応原動機又は適応トラクタの範囲

本製品は適切な原動機又は、トラクタとの装着により的確に性能を発揮できるように設計されています。

不適切な原動機又は、トラクタとの装着によっては、本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、原動機又は、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼすことがあります。

この製品の適応原動機又は適応トラクタは次のとおりです。

	原 動 機		適応トラクタ 馬 力
	エンジン馬力	モーター出力	
飼料カッタ	2.5～7 PS	2.5～3.7kW	
マウントカッタ			15～25PS

取扱い上の注意

適応トラクタ馬力はマウントカッタを直装できるトラクタの範囲を表すもので、所要馬力に相当するものではありません。

3 組立部品

1. 解 梱

梱包枠に固定されている部品を外してください。

取扱い上の注意

飼料カッタの場合、梱包枠の下台は、カッタベースとして使用します。

2. 組立部品の明細

梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要部品がそろっているか確認してください。

3. 組立要領

取扱い上の注意

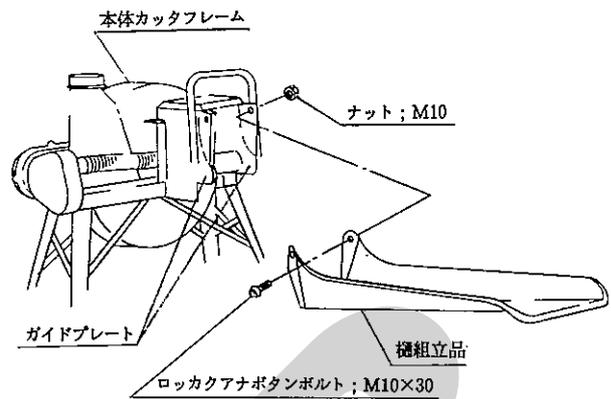
本作業機は重量物のため組立後の移動が容易ではありません。

本作業機の組立は据え付け場所で行なってください。

尚組立場所は平坦にすると共に作業者の足場と据え付け面を同一面にしてください。

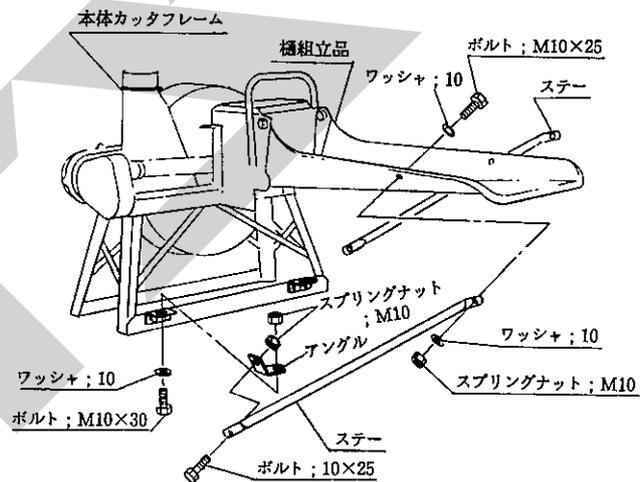
各部品の組立に必要なボルト・ナット類は、梱包明細の符号を参照してください。

(1) 樋組立品を本体カッタフレームのガイドプレート左右に組み付けます。

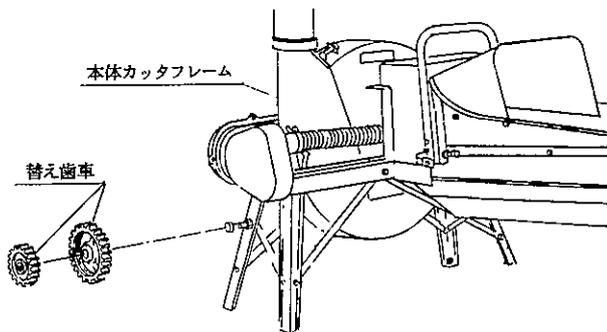


(2) ステアーを組み付けます。

《マウントカッタの場合》



- (7) 使用しない替え歯車を本体カッタフレームギヤボックス下部のフックボルトに引っかけます。



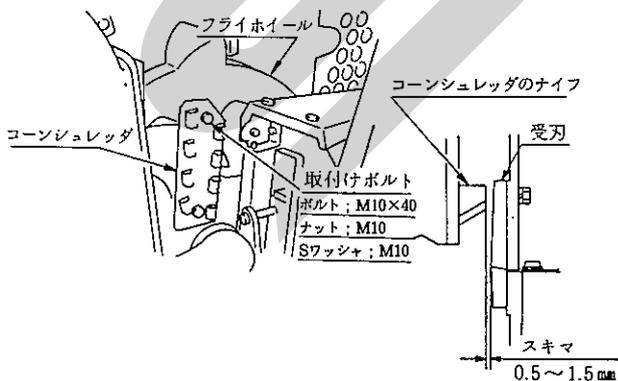
4. オプション品の組立要領

- (1) コーンシュレツダアタッチメント組立要領
フライホイールのフライホイールアームにボルト・ナットで取付けます。

取付け後、フライホイールを手で廻し受刃と接触しないことを確認してください。

取扱い上の注意

稲ワラ・牧草切断の時はコーンシュレツダ刃部に切断物がからみ付くので本品を取外し使用してください。



- (2) モータベースアタッチメント組立要領

- ① 本体カッタフレームの梱包枠下台を外し、本体カッタフレームをベースに取付けます。
- ② ベースにブラケット・アーム・ハンドル類の部品を組み込みモータをアームに乗せ固定します。

取扱い上の注意

モータベースアタッチメントに搭載する適応モーターは、2.2~3.7kW・4Pです。

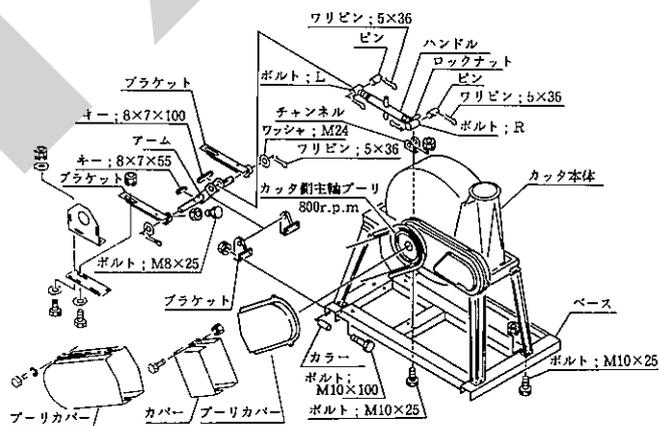
- ③ カッタ側とモータ側のプーリの芯出し後、B形Vベルト#76を2本、それぞれのプーリに掛け渡します。
- ④ ブラケットとアームを押しボルトで固定し、ハンドルを廻しベルトの張りを調整します。

取扱い上の注意

- カッタ主軸回転速度は800rpmです。「1-4-1 据え付け」に基づき原動機側プーリ径を決めてください。
- ⑤ 本体カッタ側プーリカバー；1の方向を調整後、プーリカバー；2を取付けてください。

▲ 注意

- モータ側プーリを防護しないで運転すると巻き込まれてケガをすることがあります。カバーなどで防護してください。

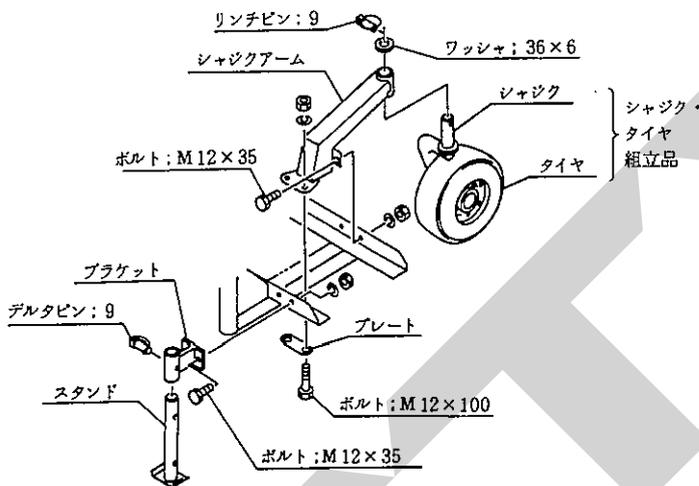


- (3) サポートホイールアタッチメント組立要領
- ① マウントカッタをトラクタに連結してください。
 - ② トラクタの3点リンクを昇降する油圧レバーを操作してマウントカッタを上昇させてください。
 - ③ トラクタ3点リンクの油圧回路に設けられたバルブを閉じてください。

▲ 注意

- マウントカッタを上げた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをすることがあります。台などで降下防止をしてください。

- ④ マウントカッタフレーム左右にシャジクアーム・スタンドを取付けてください。
- ⑤ シャジクアーム後方にジャジク・タイヤ組立品を挿入しリンチピンで固定してください。
- ⑥ トラクタ3点リンクの油圧回路に設けられたバルブを開き、油圧レバーを操作しサポートホイールアタッチメントの車輪が接地するまで降下させてください。
- ⑦ トップリンクをマウントカッタ側及びトラクタ側から取りはずしてください。
- ⑧ マウントカッタフレームの下側部がほぼ水平になるように、ローリンクの高さを調節してください。
- ⑨ トラクタ3点リンクの油圧回路に設けられたバルブを閉じてください。



取扱い上の注意

切断作業時、ローリンクが動かないよう3点リンクの油圧回路に設けられたバルブを閉じてください。

4 据え付け又はトラクタへの装着

1. 据え付け<<飼料カッタの場合>>

▲ 警告

- エンジン又はモータにプーリを取り付ける時、定められた直径より大きなプーリを取り付けると高速回転によりカッタが破損しケガをすることがあります。定められた直径のプーリを取り付けてください。
- モータにプーリを取り付ける時、定められた直径より大きなプーリを取り付けると高速回転によりカッタが破損しケガをすることがあります。定められた直径のプーリを取り付けてください。

▲ 注意

- エンジン又はモータ側プーリを防護しないで運転すると巻き込まれケガをすることがあります。カバーなどで防護してください。
- エンジンの周囲に可燃物を置くと引火し火災を起こすおそれがあります。可燃物は置かないでください。
- カッタに動力を伝達するベルトを防護しないで運転すると巻き込まれてケガをすることがあります。カバーあるいは柵などで防護してください。
- ぬれた手でプラグあるいは、モータ側結線部に接触すると感電することがあります。ぬれた手でさわらないでください。

- (1) 本作業機は原動機を必要とします。次の要領で原動機側プーリ径(A)を求めてください。

$$\text{A mm} = \frac{800 \times \text{カッタプーリ径 B mm}}{\text{原動機側回転数 C rpm}}$$

※1. カッタプーリ径(B)は、平プーリ使用の場合、外径200mm

(オプション品・平ベルト幅75×4使用)

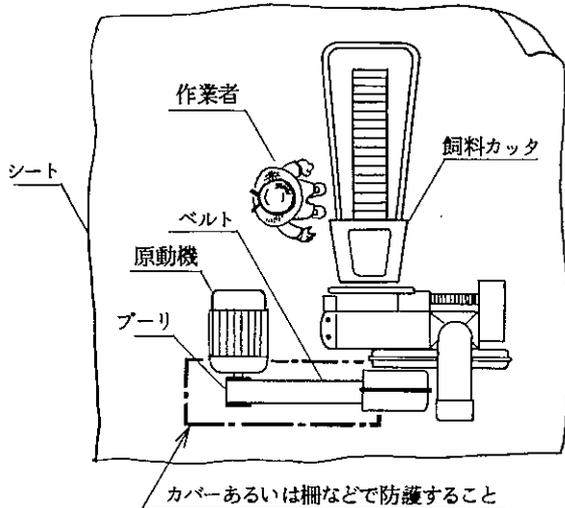
Vプーリ使用の場合、外径203mm

(VベルトB径2本掛け使用)

※2. 原動機側回転数(C)は、原動機に表示されている連続定格出力回転数です。

- (2) 本体カッタフレームを据え付け面にしっかりと固定してください。
- (3) 作業機側プーリと原動機側プーリの芯出しを行い、それぞれのプーリにベルトを掛け渡してください。

- (4) 原動機を移動しベルトの張りを調節してください。
- (5) 原動機を据え付け面にしっかりと固定してください。
- (6) 原動機側プーリー及びベルトをカバーあるいは柵などで防護してください。



取扱い上の注意

原動機及び作業機が振動で移動しないよう据え付け場所にしっかりと固定してください。尚一つのセット台に原動機及び作業機を固定するとベルトの芯出しや張り調整を容易に行なうことができます。

2. 3点リンクへの連結 《マウントカッタの場合》

▲ 警告

- トラクタにマウントカッタを着脱するためにトラクタを移動させる時、トラクタとマウントカッタの間に人がいると、挟まれてケガをすることがあります。トラクタとマウントカッタの間に人を近づけないでください。

▲ 注意

- マウントカッタをトラクタに着脱する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- 装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

- (1) トラクタのエンジンを始動して、トラクタのロワーリンク先端部と作業機の左右のロワーリンクピンの位置が合うまで後進して、トラクタをとめてください。
エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (2) 左のロワーリンクを連結し、抜けどめにトラクタに付いているリンチピンをロワーリンクピンに差ししてください。
次に、右のロワーリンクも同順で行ってください。
- (3) 左右のロワーリンクが同じ高さになるように、トラクタ右側のアジャストスクリーンで調整してください。
- (4) トップリンクの長さを調節して作業機側とトップリンクピンで連結し、抜けどめにベータピン又はリンチピンを差ししてください。
- (5) トラクタのエンジンを始動し、トラクタ3点リンクを昇降する油圧レバーを操作して作業機を少し上げ、エンジンをとめてください。
- (6) 作業機中心がトラクタ中心におおよそ一致する位置に、チェックチェーンでセットし、作業機の横振れをなくしてください。
- (7) 3点リンクを下げ、作業機をおろしてください。

5 パワージョイントの装着

《マウントカッタの場合》

▲ 危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。損傷したらすぐに取り替えてください。使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよびマウントカッタに着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをすることがあ

ります。
PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。

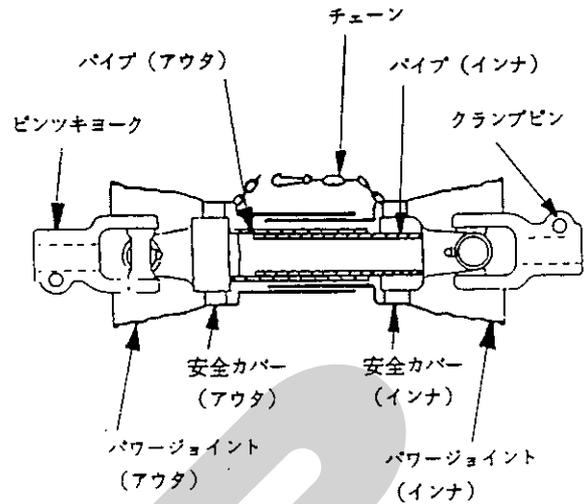
- カバーのチェーンを取り付けしないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。
トラクタ側とマウントカッタ側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲ 注意

- 最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをする事があります。
最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きることがあり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。
適正な重なり量で使用してください。

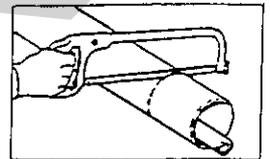
1. 長さの確認方法

- (1) パワージョイント単体で、最縮長時の安全カバー（アウト）端部位置を安全カバー（インナ）にマーキングしてください。
- (2) パワージョイント（アウト）から、パワージョイント（インナ）を引き抜いてください。
- (3) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC軸が最も接近する位置で、昇降を停止してください。
- (4) ピン付ヨークのクランプピンを押して、PTO軸、PIC軸に連結し、クランプピンが元の位置に出るまで押し込んでください。
- (5) 安全カバーどうしを重ね合わせた時、安全カバー（アウト）端部位置とマーキング位置の間隔が25mm以下の場合には、25mmの間隔を保つように切断方法の手順に基づき切断してください。
- (6) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC軸が最も離れる位置で、昇降を停止してください。
- (7) 安全カバーどうしを重ね合わせた時、パイプの重なりが100mm以下の場合には、販売店に連絡し、長いパワージョイントと交換してください。

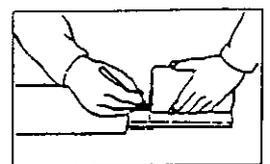


2. 切断方法

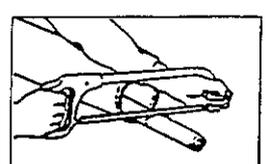
- (1) 安全カバーのアウト・インナ両方を長い分だけ切り取ります。



- (2) 切り取った同じ長さをパイプの先端から切ります。



- (3) パイプのアウトとインナ両方を金ノコまたはカッターで切断します。



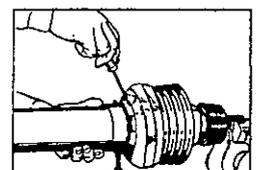
切断する時は、パイプの中にウエスを詰め、パイプ内面に切り粉が付着するのを防いでください。

- (4) 切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げからパイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、アウトとインナを組み合わせます。

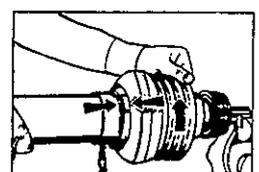
3. 安全カバーの脱着方法

- (1) 安全カバーの分解手順

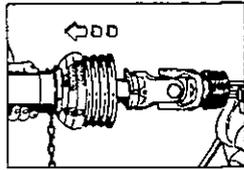
- ① 固定ネジを取り外してください。



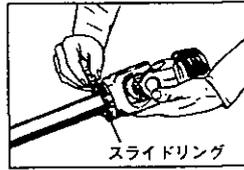
- ② 安全カバーを取り外し位置へ回してください。



- ③ 安全カバーを引
き抜いてください。

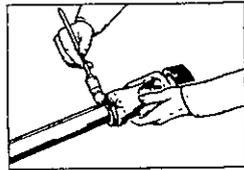


- ④ スライドリング
を取り出してくだ
さい。

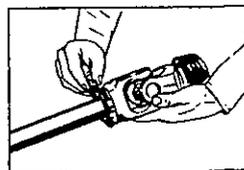


(2) 安全カバーの組立手順

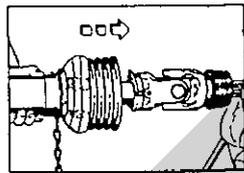
- ① ヨークのスライ
ドリング溝とパイ
プ（インナ）にグ
リースを塗って
ください。



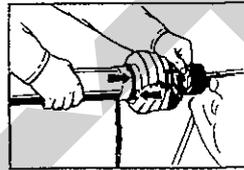
- ② スライドリング
のつばをパイプ側
に向け、切口を開
いて溝にはめて
ください。



- ③ その上に、安全
カバーをはめて
ください。



- ④ カバーをしま
り止まるまで回
してください。



- ⑤ 固定ネジを締め
付けてください。

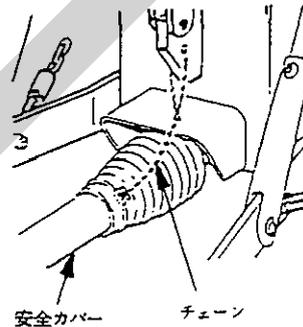
4. パワージョイントの連結

▲ 注意

- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをする事があります。溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

- (1) ピン付きヨークのクランプピンを押して、PTO軸、PIC軸に連結し、クランプピンが元の位置に戻るまで押し込んでください。

- (2) 安全カバーのチェーンを回転しない所に取り付け、カバーの回転を防いでください。チェーンの張りは、3点リンクの動きに順応できる余裕を持たせ、また他への引っかかりなどがないよう余分なたるみをとってください。



2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前必ず行いましょう。

▲ 注意

- 始業点検を怠ると、機械の調整不良や破損、傷害事故をまねくことがあります。作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行なってください。

1 運転前の点検

1. 原動機又はトラクタ各部の点検

原動機又はトラクタの取扱説明書に基づき点検を行ってください。

2. 連結部の点検

《マウントカッタの場合》

(1) 3点リンクの連結部点検

- ① ローリンク・トップリンクのリンチピン・ベータピンは、確実に挿入されているか。
- ② チェックチェーンは張られているか。

取扱い上の注意

不具合が見つかった時は、「1-4-2 3点リンクへの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

(2) パワージョイントの点検

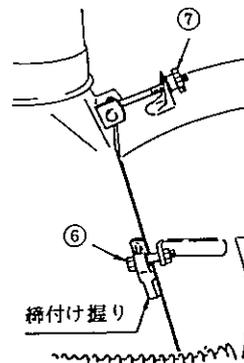
- ① ジョイントの抜け止めのクランプピンが軸の溝に納まっているか。
- ② ジョイントカバーのチェーンの取付に余

分なたるみがないか。また、適度な余裕があるか。

③ ジョイントカバーに損傷はないか。

取扱い上の注意

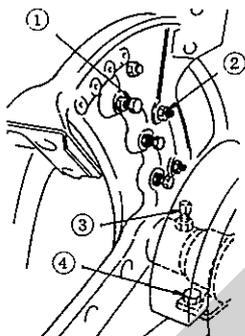
不具合が見つかった時は「1-5 パワージョイントの装着」の説明に基づき不具合を解消してください。



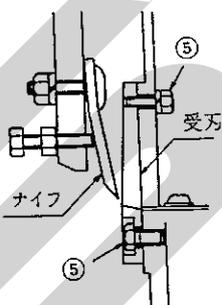
3. 製品本体の点検

(1) 各部のボルト・ナットにゆるみがないか。又ピン類の脱落はないか。特に次の箇所は、入念に行なってください。

- 符号① ナイフ調整押しボルト・ナット
- 符号② ナイフ取付けボルト・ナット
- 符号③ フライホイール取付けボルト・ナット
- 符号④ 主軸軸受取付けボルト・ナット



符号⑤ 受刃取付けボルト・ナット



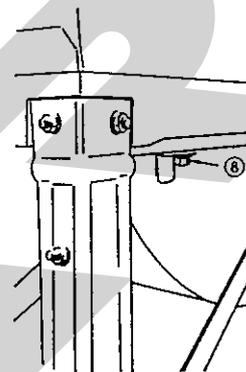
符号⑥ 上ケーシング締め付け握りボルト・ナット

符号⑦ 上ケーシングロックナット

取扱い上の注意

締め付け握りの締め付け力が弱い時は、多少きつめに締め付ける状態までナットを締め込んでください。

符号⑧ ボトムケーシング取付けボルト



(2) コンベヤの張り過ぎ又はゆるみ過ぎはないか。

取扱い上の注意

不具合が見つかった時は「1-3-3-3 コンベヤの組込み」の説明に基づき不具合を解消してください。

(3) 各部の給油は十分か。

取扱い上の注意

油脂が不足している時は、「2-3 給油箇所一覧表」の説明に基づき給油してください。

(4) タイヤの空気圧は十分か。
 ≪サポートホイールアタッチメントの場合≫
 空気圧=310KPa (3.2kg/cm²)

2 原動機又はトラクタエンジン始動での点検

▲ 警告

- カッタのクラッチを切らないでエンジン又はモーターを始動すると、急にカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。クラッチを切ってから始動してく

ださい。

- トラクタのエンジンを始動する時PTO及びカッタのクラッチを切らないで始動すると、急にマウントカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。PTO及びカッタのクラッチを切ってから始動してください。

1. 原動機又はトラクタエンジン始動での点検

- (1) クラッチを停止の位置にし、原動機（エンジン・モーター）又はトラクタエンジンを始動してください。
- (2) カッタを回転させ、カッタ本体に異常音や異常振動がないか確認してください。
- (3) クラッチを「前進」・「後退」に入れ上下ロール及びコンベヤ部に異常音や異常振動がないか確認してください。

取扱い上の注意

- 不具合が見つかった時は「6-1 不調処置一覧表」に基づき不具合を解消してください。
- 「前進」「後退」にクラッチを操作する時はレバーを一度「停止」でとめ、上下ロールが停止してから行なってください。

3 給油箇所一覧表

- 給油、塗布する油は、清浄なものを使用してください。
- グリースを給脂する場合は、古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまで行なってください。
- 出荷時には、十分給油してありますが、使用前に確認してください。

No.	給油箇所	箇所	潤滑油の種類	給油時間	備考
1	上ロール軸受；R・L	2	グリース	使用ごと	
2	下ロール軸受；R・L	2	〃	〃	
3	五角車軸受；R・L	2	〃	〃	
4	主軸軸受；F・RE	2	〃	〃	
5	軸受	1	〃	〃	
6	五角車駆動チェーン		オイル又はグリース	〃	
8	ギヤボックス	1	グリース	使用初期30時間後 その後100時間ごと交換	交換量300～350g
9	ギヤボックス(クラッチ軸)	2	〃	使用ごと	
10	ベベルホイール軸受	1	〃	〃	
11	歯車歯面		オイル又はグリース	〃	
12	ギヤボックス(下ロール軸受)	1	グリース	〃	
13	上ロールギヤ軸受	1	〃	〃	
14	後部コンベヤロール	2	オイル	〃	
15	テンションアーム軸受	1	グリース	〃	} マウントカッタ
16	パワージョイント	2	〃	〃	

※回転、回動支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部にはオイルを注油し、又、PTO軸、PIC軸、パワージョイントのスプライン部にはグリースを塗布してください。

2. 常用回転数

- (1) 飼料カッタ常用回転数
800rpm（フライホイール主軸）
- (2) マウントカッタ常用回転数
540rpm（トラクタPTO軸、変速1段）

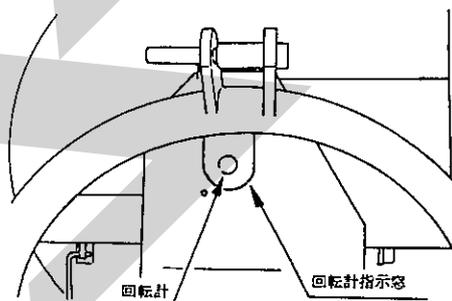
取扱い上の注意

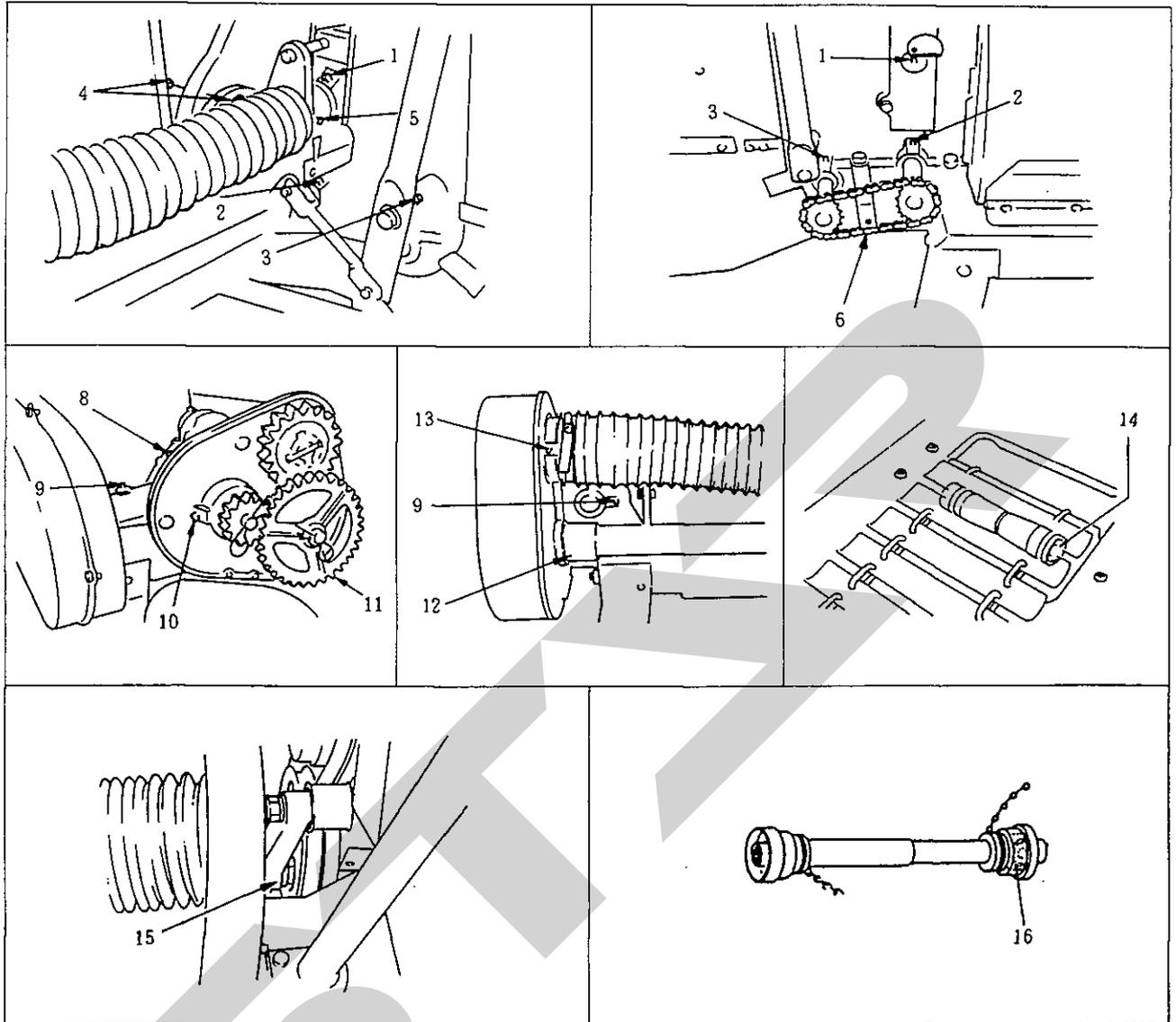
マウントカッタには、回転計が組み付けられています。

適正回転になると回転計指示窓に青色が表示されます。

常用回転数を越えると、赤色が表示されません。

青色が表示されるまでエンジンの回転（PTO回転）を下げてください。





3 作業の仕方

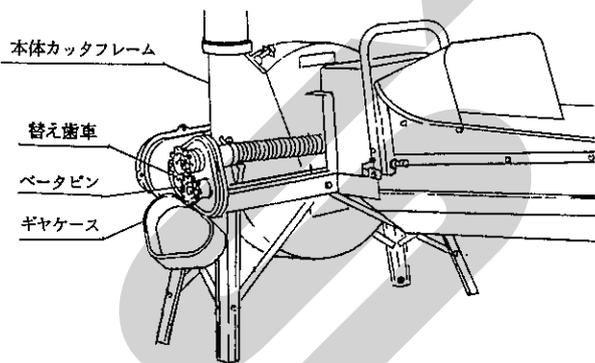
1 本製品の使用目的

1. 本製品は飼料の細断としてデントコーン・稲ワラ・牧草の切断吹上げに使用します。他の用途には、使用しないでください。
2. 本製品は、作業者が操作しやすく飼料細断物が容易に供給できる広さのある場所に据え付けて使用してください。
又、雨降り時や雨上がり直後のほ場、ぬかるみのあるほ場では、作業を行なわないでください。

2 各部の調整

1. 切断長さの調整

切断長さは、替え歯車の組合せで行ないます。出荷時は、切断長さ20mm (20枚×31枚) にセットされています。
切断長さを変更する時はギヤケースを開きベータピンを抜き下表に基づき替え歯車を差し替えてください。



切断長さ歯車組合せ表

切断長さ	10mm	20mm	45mm	60mm
替え歯車組合せ				

取扱い上の注意

切断長さ45mm・60mmの場合は、コンベヤ速度が非常に速く危険ですのでコンベヤを外して使用してください。

2. コンベヤの張り調整

「1-3-3-3 コンベヤの組込み」の説明に基づき調整してください。

3. ナイフと受刃の隙間調整

▲ 注意

- ナイフを調整する時、不意にフライホイールが回転し、取り付けられたナイフでケガをすることがあります。フライホイールの回り止めを確実にし、作業してください。

- (1) ナイフ調整押しボルトで左右均等に少しずつナイフを押し出しナイフと受刃との隙間を調整します。

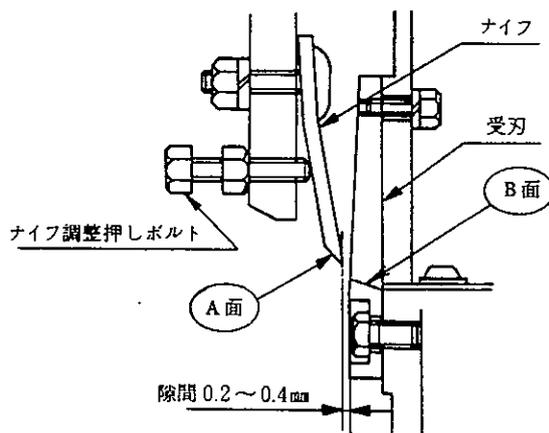
隙間は内側（主軸軸受側）は0.2mm、外側（フライホイール羽根側）は0.4mmに調整します。

- (2) ナイフの切味は、直接、作業能率に影響します。

又、草やワラの巻き付きの原因ともなりますので常にナイフと受刃の隙間確認とナイフならびに受刃の研磨を行なってください。

取扱い上の注意

ナイフ及び受刃はそれぞれA面・B面だけを研磨してください。



3 作業要領

▲ 危険

- 運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。供給口から中には、手を入れないでください。
- 運転中又は回転中、フライホイールに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。吐出口から中には、手を入れないでください。

▲ 警告

- 運転中又は回転中、ケーシングを開けると、回転刃およびフライホイールに接触し、ケガをする事があります。ケーシングを開けないでください。
- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- カッタ指定の回転速度を超えて作業すると、カッタの破損により、ケガをする事があります。指定回転速度を守ってください。
- カッタの上に人が乗ったり物を載せるとケーシング等が変形し、フライホイールでケーシング等を破損しケガをすることがあります。カッタの上に人が乗ったり、物を載せたりしないでください。
- トラクタまたはエンジンを使用して納屋やハウスなどでの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になる事があります。窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。
- マウントカッタでは、トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。
- トラクタから離れる時、マウントカッタをあげたままにしておくと、第三者の不注意により不意に降下し、ケガをする事があります。下限まで降ろしてからトラクタを離れてください。

- カッタのクラッチを切らないでエンジン又はモーターを始動すると、急にカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。クラッチを切ってから始動してください。
- トラクタエンジンを始動する時PTO及びカッタのクラッチを切らないでエンジンを始動すると、急にマウントカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。PTO及びカッタのクラッチを切ってから始動してください。

▲ 注意

- 運転中又は回転中、吐出物が当たり、ケガをする事があります。吐出方向に近づかないでください。
- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。カバーを開けないでください。
- カバーの開放部から手を入れると、回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。手を入れないでください。
- カッタあるいはマウントカッタの調整や、付着物の除去などを行なう時、動力を切らずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。動力を切り、回転部がとまっていることを確かめて行なってください。

《飼料カッタの場合》

1. 細断物を放出したい方向にエルボの吐出口を向けてください。
2. カッタのクラッチを切ってください
3. 原動機を始動し、低速で回転させてください。
4. カッタのクラッチを「前進」に入れてください。
5. 原動機を定格回転速度まで上げてください。
6. コンベヤに細断物を乗せてください。細断物は無理に押し込まず均一で一定量づつ連続して供給してください。

取扱い上の注意

- 作業中、ケーシングや円筒に細断物が詰まった時はすぐに供給をやめ、カッタのクラッチを切りさらに原動機の回転を停止させてから詰りを取り除いてください。
- カッタを回転させながら円筒をたたいて詰りを取り除くことはしないでください。

《マウントカッタの場合》

1. マウントカッタを接地させてください。
2. 細断物を放出したい方向にエルボの吐出口を向けてください。
3. トラクタの変速を「N」にし駐車ブレーキを掛けてください。
4. カッタのクラッチ及びトラクタのPTOを切ってください。
5. トラクタのエンジンを始動し、低速で回転させてください。
6. カッタのクラッチを「前進」に入れトラクタのPTOを入れてください。
7. トラクタのエンジン回転速度を540rpmまで上げてください。

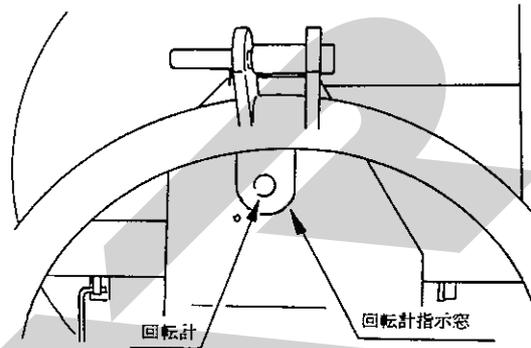
取扱い上の注意

マウントカッタには回転計が組み付けられています。

トラクタPTO回転速度が540rpm近くなると回転計表示窓に青色が表示されます。

PTO回転速度が540rpmを越えると赤色が表示されます。

赤色が表示されたら、ただちに青色の表示になるまで回転速度を下げてください。



8. コンベヤに細断物を乗せてください。細断物は無理に押し込まず均一で一定量づつ連続して供給してください。

取扱い上の注意

- 作業中、ケーシングや円筒に細断物が詰まった時は、すぐに供給をやめ、カッタのクラッチとトラクタPTOを切りエンジンをとめてから詰りを取り除いてください。
- カッタを回転させながら円筒をたたいて詰りを取り除くことはしないでください。

4 運 搬

《マウントカッタの場合》

▲ 警 告

- 旋回する時、作業機が旋回方向とは逆方向にふくれるため、周囲の人に接触しケガをさせたり、対向物・障害物に衝突しケガをする事があります。
周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間隔を保って行ってください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こすことがあります。路肩は走行しないでください。
- 高低差の大きい断差を乗り越えようとすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをすることがあります。あゆみ板を使用してください。
- マウントカッタの上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の人へケガを負わせる事があります。マウントカッタの上には、人や物などはのせないでください。

▲ 注 意

- マウントカッタへの動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。
移動走行する時は、PTOを切ってください。

1. パイプ・エルボ組立品の放出口を機体側方より出ないよう機体内側に廻わしてください。
2. 3点リンクで作業機を持ち上げてください。
3. トラクタの3点リンクの下降を防止して移動を開始してください。

※ 1. 本作業機にASW3000サポートホイールアタッチメントを組み込み使用される場合は、3点リンクで作業機を持ち上げ、スタンドを上方向に格納し、本作業機を水平にした後トップリンクを外しトラクタの3点が動かないよう油圧レバーを固定しトラクタローリンクでけん引移動します。

4 作業が終わったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。

▲ 注 意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをする事があります。
動力を切り、回転部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 作業後点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。
作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 3点リンクでマウントカッタを持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。
トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

1 作業後の手入れ

1. 機械の上に付着している細断物をきれいに取り除いてください。
特に、ケーシング内部の残存物や巻き付いた細断物は、シール部品、軸受部品等を傷つけないので、完全に除去してください。
2. ボルト・ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないか。また、破損部品がないか確認してください。
異常があれば、ボルトの増締め、部品の交換をしてください。
3. ナイフの切味は、直接作業能率にも影響します。
又、細断物の巻き付きの原因ともなります。
ナイフと受刃との隙間は適正か。又、ナイフと

受刃の刃欠けや摩耗がないか確認してください。

取扱い上の注意

不具合が見つかった時は「3-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」の説明に基づき不具合を解消してください。

4. ナイフ、受刃は消耗品です。
早めに予備品を準備してください。
5. PTO軸、PIC軸、ジョイントスプライン部など、塗装されていない露出部は、錆を防ぐためグリースを塗布してください。
《マウントカッタの場合》
6. トラクタからマウントカッタを外す時は、スタンドをたててから行なってください。
《サポートホイールアタッチ使用の場合》
7. トラクタからマウントカッタを外したら、マウントカッタからパワージョイントを外し、本機と一緒に保管してください。
《マウントカッタの場合》

2 長期格納する時

1. 機械各部の清掃をしてください。
2. 摩耗した部品、破損した部品は交換してください。
3. 給油箇所一覧表に基づき、油脂を補給してください。
4. 塗装損傷部を補修塗装、又は、油を塗布し錆の発生を防いでください。
5. 格納は風通しの良い屋内に保管してください。
やむをえず屋外に保管する時は、シートをかけてください。

5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

▲ 注意

- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。取扱説明書に基づき処置してください。
- 動力を切らずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。動力を切って、回転部がとまっている事を確かめて行ってください。
- マウントカッタをあげた状態のまま、下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをする事があります。下に入る時は、台などで降下防止をして行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると回転部に巻き込まれ、ケガをする事があります。元通りに取り付けてください。

1 点検整備一覧表

時 間	点 検 項 目	処 置
新品使用前	<ul style="list-style-type: none"> ●全ボルト・ナットのゆるみ ●各部の給油 ●ナイフ・受刃の隙間 ●回転部・駆動系の異常音 	増し締め 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき不足の場合は処置 「3-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」に基づき処置 「6 不調時の対応」に基づき処置
新品使用1時間	<ul style="list-style-type: none"> ●全ボルト・ナットのゆるみ 	増し締め
作 業 前 作 業 後	<ul style="list-style-type: none"> ●機械の清掃 ●ナイフ・受刃の摩耗、刃欠け ●ナイフ・受刃の隙間 ●ケーシング（ボトムケーシング・トップケーシング・タテカバー）・エルボ・ダクト・フライホイールブレードの摩耗 ●ボルト・ナット・ピン類のゆるみ、脱落 ●回転部・駆動系の異常音・異常振動 ●回転部・可動部の給油、注油、給脂 ●パワージョイント、カバー、チェーンの破損 ●タイヤ空気圧 ●駆動ベルトの張り具合、破損 	研磨、交換 「3-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」に基づき処置 交 換 増し締め、部品補給 「6 不調時の対応」に基づき処置 「3-3 給油箇所一覧表」に基づき処置 交 換 310K P a (3.2kg/cm ²) 調整、交換
シーズン終了後	<ul style="list-style-type: none"> ●破損部 ●ナイフ・受刃の消耗品 ●ケーシング（ボトムケーシング・トップケーシング・タテカバー）・エルボ・ダクト・フライホイールブレードの消耗品 ●各部の清掃 ●塗装損傷部 ●回動支点、ピン等の摩耗 	補 修 研磨、交換 交 換 塗装または油塗布 交 換

6 不調時の対応

万一機械の調子が悪い場合は、不調処置一覧表により処置をしてください。

1 不調処置一覧表

	症 状	原 因	処 置
回転 (ナイフ・受刃・フライホイール)部	●異常音・異常振動	<ul style="list-style-type: none"> ●機体の据え付け(設置)が不安定 ●マウントカッタを3点リンクで持上げ作業 ●ナイフと受刃の接触 ●フライホイールブレードとケーシングに細断物がはさまっている ●フライホイールやナイフに細断物が付着したり巻き付いている ●細断物に小石や砂が混入 	<ul style="list-style-type: none"> ●平坦な凹凸のない場所に設置する ●3点リンクを下げ本機を平坦な場所に設置する ●「3-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」を参照し調整する ●作業前後の点検で付着物や巻き付いたものを取り除く ●シートを敷きその上に細断物を集積して混入を防ぐ
	●ナイフの刃欠け	<ul style="list-style-type: none"> ●細断物に小石や砂が混入 	<ul style="list-style-type: none"> ●シートを敷きその上に細断物を集積して混入を防ぐ
	●フライホイール軸・軸受に巻き付く	<ul style="list-style-type: none"> ●飼料用細断物(デントコーン・稲ワラ・牧草)以外のものを投入 ●ナイフと受刃の隙間不良 	<ul style="list-style-type: none"> ●「2-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」を参照し調整する ●ナイフ・受刃の研磨又は交換
コンベヤ・供給 ロール部	●上・下ロールの送りが悪い	<ul style="list-style-type: none"> ●牧草のかたまりを投入している ●稲ワラ束の株側から投入している ●デントコーン束の茎側から投入している 	<ul style="list-style-type: none"> ●かたまりをほぐし一定量を均一に連続投入する ●細断物束の穂先側から投入し一定量を均一に連続投入する
	●上ロールの上・下の動きが悪い	●上・下する上ロール軸受部に細断物がはさまっている	●はさまっている細断物を取り除く
	●コンベヤ速度が速い	●長切り(45mm・60mm)の切断	●コンベヤ速度が速く危険、コンベヤを取外して使用
	●コンベヤの振動が激しい	●長切り(45mm・60mm)の切断	●コンベヤ速度が速く危険、コンベヤを取外して使用
	●切断長さがばらつく	●コンベヤの張りが不適	●「1-3-3 コンベヤの組込み」を参照し調整する
	●クラッチが抜ける	●牧草の束・かたまりを断続的に投入している	●かたまりをほぐし一定量を均一に連続投入する
	●軸受類の穴が大きくなった	●クラッチ・ベベルピニオンF; 12T・ベベルピニオンRE; 12Tの爪摩耗	●部品交換
	●ベルトがすべる	●給油不足な状態で作業したため摩耗	●「前進」・「後退」に操作したとき、「停止」の位置でロールが止まってから操作する
	●ベルトが外れる	●部品交換	●「2-3 給油箇所一覧表」を参照し給油する
	●パイプ内につまる	●張り調整する	●供給量を少なくし、一定量を均一に連続投入する
	●定置で原動機(エンジン・モーター)を使用時振動で機体移動する	●原動機及び機体を動かないよう固定する	
	●プーリーの芯が合っていない	●芯を合わす	
	●ベルトの張りが不足している	●張り調整する	
	●吹上げパイプが斜めに据え付けてある	●垂直に据え付ける	
	●パイプの径が違う	●当社純正品を使用する	
	●パイプ内が錆ている	●錆を落す、又は交換	
	●パイプがつぶれ変形している	●部品交換	
	●放出口のエルボ・ダクトの形状が悪い(純正品を使用していない)	●当社純正品を使用する	

原因や処置のしかたがわからない場合は、下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製品名
2. 部品供給型式(型式)
3. 製造番号
4. 故障内容(できるだけ詳しく)

7 部 品 表

部品のご注文について

1. 部品ご注文の際は、下記項目をご連絡ください。

- ① 製品名
- ② 部品供給型式 (型式)
- ③ 部品名称 (部品表を参照してください。)
- ④ 部品番号 (")
- ⑤ 個 数 (")

※部品供給型式は取説・部品表表紙および本体に貼付のネームプレートに表示しています。

2. 部品名称欄に「**◎**付」と表示している部品には、該当見出番号の部品が付属されております。

(例)

見出番号	部品番号	部分名称	個数
1	92602	シャフト	2
2	ONAS6	グリースニップル; A-M6×1F	6

このシャフトには、見出番号2のグリースニップルが取り付けられている事を示します。

3. 使用型式により部品番号や個数が異なる場合は、部品名称欄に注記していますのでご注意ください。

4. ボルト・コネジ・ナット類の部品番号末尾に記載されている英文字は以下のことを表しております。

(例) BZ0815A (G)

(メッキ仕上げ)

A; ナット・スプリングワッシャ付

D; ナット2個付

N; ナット付

P; ワッシャ付

W; スプリングワッシャ付

5. 個数欄の☐・☑は、以下のことを表しております。

☐…シムなど、組み込まれている個数が製品個々により異なる部品。

☑…アッセイ品に含まれる部品で、単品では供給しない部品。

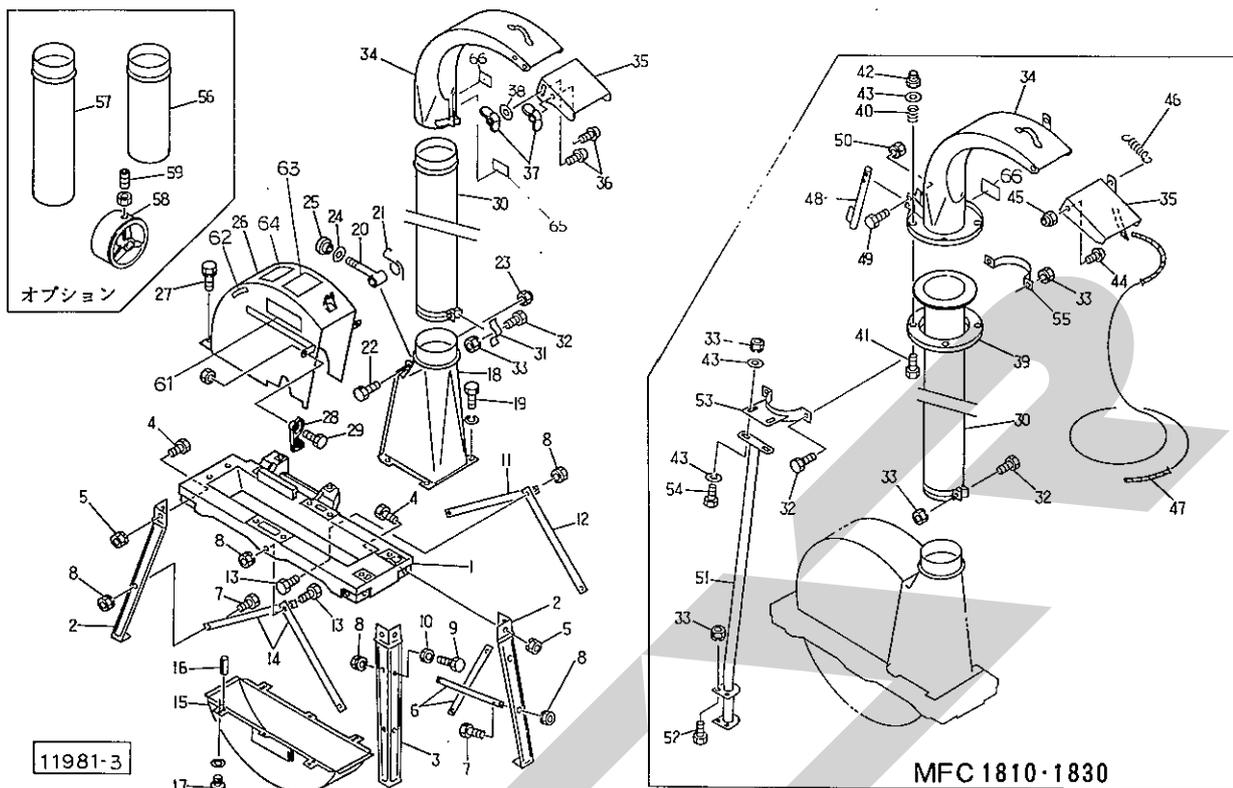
補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後10年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合は納期および価格についてご相談させていただきます。

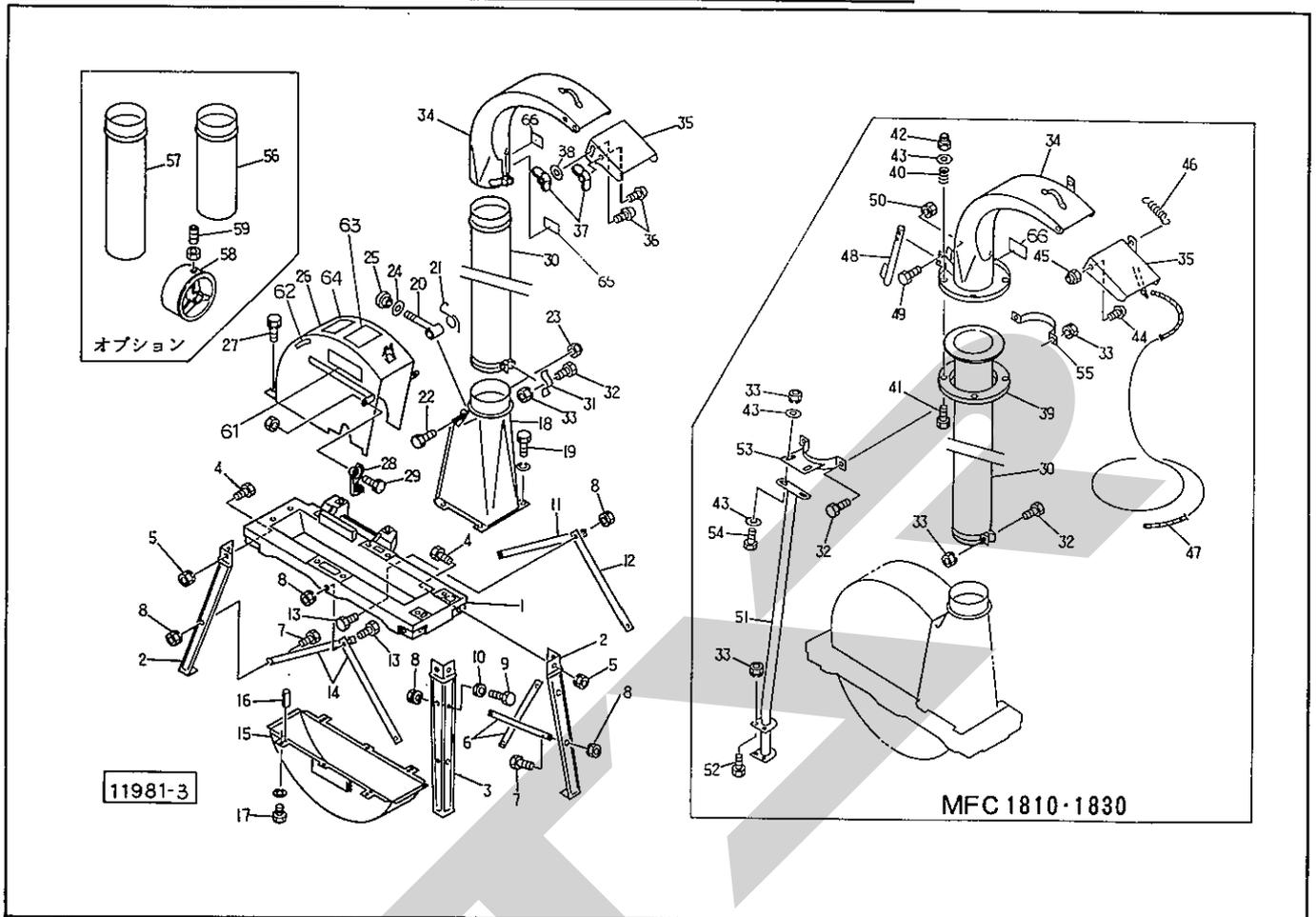
SFC1810・1830 飼料カッタ MFC1810・1830 マウントカッタ

フレーム・ケーシング・エルボ



見番	出号	部品番号	部品名称	個数	見番	出号	部品番号	部品名称	個数
1		91418	フレーム	Ⓢ16付 1	24		WRA 08 G	ワッシャ; M 8	1
2		44533	脚(右-2)		25		44289	ニギリ; M 8	1
3		44535	脚(左-2)		26		91345	トップケーシング SFC 1810、MFC 1810	1
4		BZ 1030 G	ボルト; M 10×30 (8.8)	8			91347	トップケーシング SFC 1830、MFC 1830	1
5		NP 10 G	スプリングナット; M 10	8	27		BSP 0820 G	コガタスプリングボルト; M 8×20	2
6		91402	ステー		28		91244	シメツケニギリ	Ⓢ29付 2
7		BZ 0820 G	ボルト; M 8×20 (8.8)	11	29		BZ 1050 NG	ボルト; M 10×50 (8.8)	2
8		NP 08 G	スプリングナット; M 8	14	30		89554	フキアゲパイプ SFC 1810	
9		BZ 0890 G	ボルト; M 8×90 (8.8)	1			71980	フキアゲパイプ SFC 1830	
10		NZ 08 G	ナット; M 8 (8)	1			11703	パイプ Ⓢ32、33付 MFC 1810	1
11		91403	ステー				91625	パイプ Ⓢ32、33付 MFC 1830	1
12		91404	ステー		31		44361	ストッパ(パイプ、エルボリョウヨウ) SFC 1810、1830	1
13		BZ 0830 G	ボルト; M 8×30 (8.8)	2	32		BAAZ0860 G	ボルト; M 8×60(8.8)全ネジ SFC 1810、1830	2
14		91405	ステー				BZ 1040 G	ボルト; M 10×40 (8.8) MFC 1810、1830	3
15		91337	ボトムケーシング SFC 1810、MFC 1810	1	33		NP 08 G	スプリングナット; M 8 SFC 1810、1830	2
		91340	ボトムケーシング SFC 1830、MFC 1830	1			NP 10 G	スプリングナット; M 10 MFC 1810、1830	9
16		PS 6025	スプリングピン; 6×25	2	34		91601	エルボ SFC 1810	
17		BZ 1025 WG	ボルト; M 10×25 (8.8)	4			91611	エルボ SFC 1830	
18		91357	タテカバー SFC 1810、MFC 1810	1			91610	エルボ MFC 1810	
		91360	タテカバー SFC 1830、MFC 1830	1			91619	エルボ MFC 1830	
19		BZ 1020 WG	ボルト; M 10×20 (8.8)	4	35		16667	ダクト SFC 1810	1
20		91365	トメボルト	1			71204	ダクト SFC 1830	1
21		91336	スプリング	1			91623	ダクト MFC 1810	1
22		BZ 0850 G	ボルト; M 8×50 (8.8)	1			91624	ダクト MFC 1830	1
23		NN 08 G	ナイロンナット; M 8	1	36		CP0616 G	ナベコネジ; M 6×16 SFC 1810、1830	4

SFC1810・1830 飼料カッタ MFC1810・1830 マウントカッタ フレーム・ケーシング・エルボ

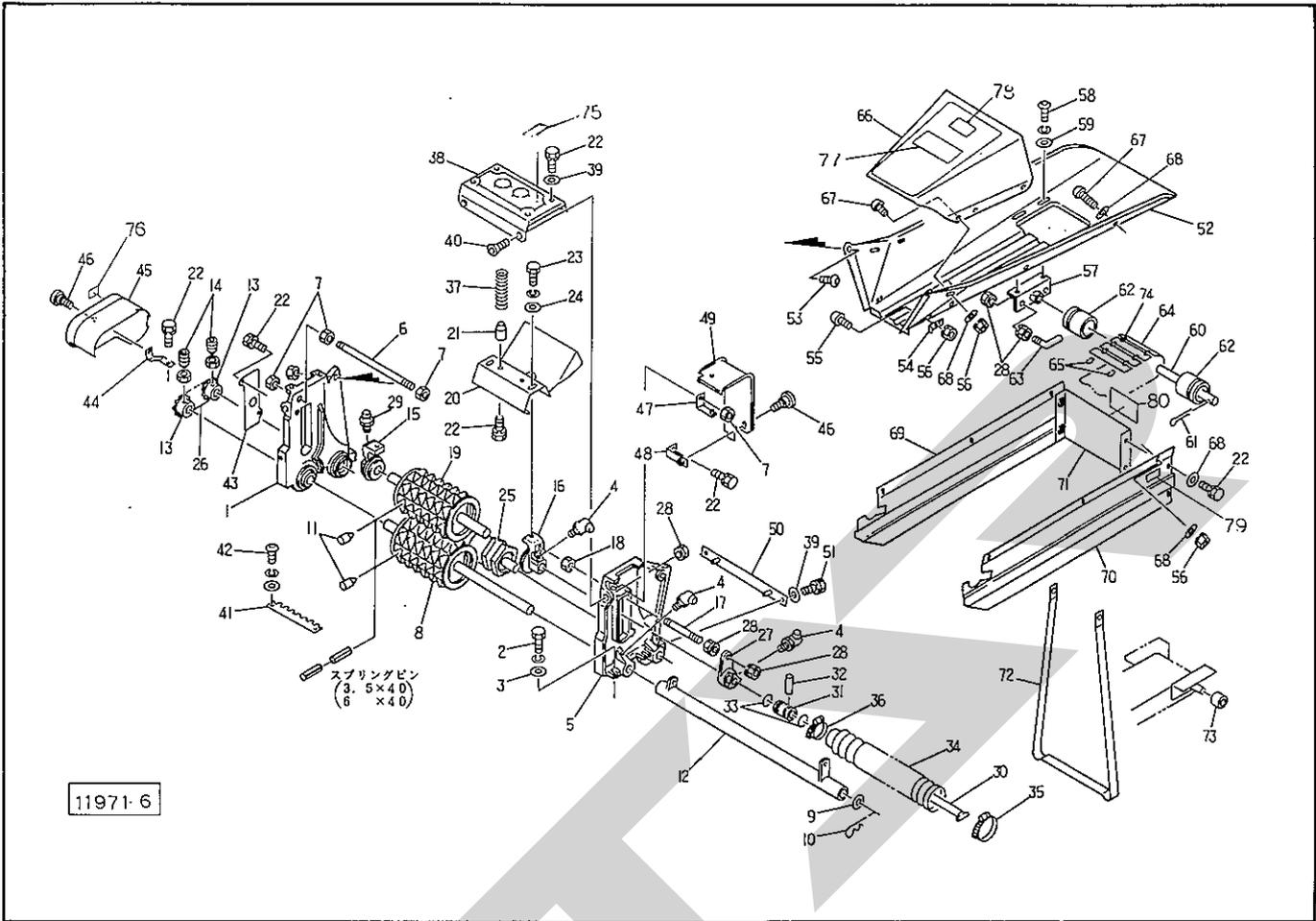


見出し	部品番号	部品名称	個数	見出し	部品番号	部品名称	個数	
	37	NEC06G	チョウナット; M6 (3種) SFC1810, 1830	4	61	1232790000	STARマークラベル; 31.5	1
	38	WRA 06G	ワッシャ; M 6 SFC1810, 1830	2	62	SS-D-7304A	カテナボウコウヒョウジラベル(L)シロ SFC1810, MFC1810	1
	39	91626	フランジ MFC 1810	1		SS-D-7304A	カテナボウコウヒョウジラベル(L)アカ SFC1830, MFC1830	1
		91627	フランジ MFC 1830	1	63	89675	チュウイラベル	1
	40	56320	バネ; 3.2×18 MFC1810, 1830	4	64	106507	ラベル; ケイコク 93	1
	41	BZ 1060G	ボルト; M 10×60 (8.8) MFC1810, 1830	4	65	106506	ラベル; ケイコク 92 SFC1810, 1830	1
	42	NN 10G	ナイロンナット; M 10 MFC1810, 1830	4	66	106508	ラベル; ケイコク 94	1
	43	44098	ワッシャ; 10 MFC1810, 1830	8	Asy	89554 Asy	フキアゲパイプ(クミ) ③30~33付 SFC1810	1
	44	CP 0820G	ナベコネジ; M 8×20 MFC1810, 1830	2	Asy	71980 Asy	フキアゲパイプ(クミ) ③30~33付 SFC1830	1
	45	NN 08G	ナイロンナット; M 8 MFC1810, 1830	2	Asy	91601 Asy	エルボ(クミ) ③31~38付 SFC1810	1
	46	18699	ヒツパリバネ MFC1810, 1830	1	Asy	91611 Asy	エルボ(クミ) ③31~38付 SFC1830	1
	47	83966	ロープ; 6×1600 MFC1810, 1830	1	Asy	91610 Asy	エルボ(クミ) ③34, 35, 44~47付 MFC1810	1
	48	91628	レバー MFC1810, 1830	1	Asy	91619 Asy	エルボ(クミ) ③34, 35, 44~47付 MFC1830	1
	49	BZ 0850G	ボルト; M 8×50 (8.8) MFC1810, 1830	2	Asy	44533 Asy	脚(クミ) ②2, 3, 6, 11, 12, 14付	1
	50	NP 08G	スプリングナット; M 8 MFC1810, 1830	2				
	51	91653	ステー MFC1810, 1830	1				
	52	BZ 1025G	ボルト; M 10×25 (8.8) MFC1810, 1830	4				
	53	91654	ブラケット MFC1810, 1830	1				
	54	BZ 1030G	ボルト; M 10×30 (8.8) MFC1810, 1830	2				
	55	92950	プレート MFC1810, 1830	1				
	56	FC 20-605	フキアゲパイプ; 4.5×90cm ※	-				
	57	FC 20-606	フキアゲパイプ; 4.5×180cm ※	-				
	58	91763	プーリ ⑤59付※	-				
	59	MD0825NG	ロッククアナトメネジ; M8×25クボミ ※	-				

※オプション

SFC1810・1830 飼料カッタ MFC1810・1830 マウントカッタ

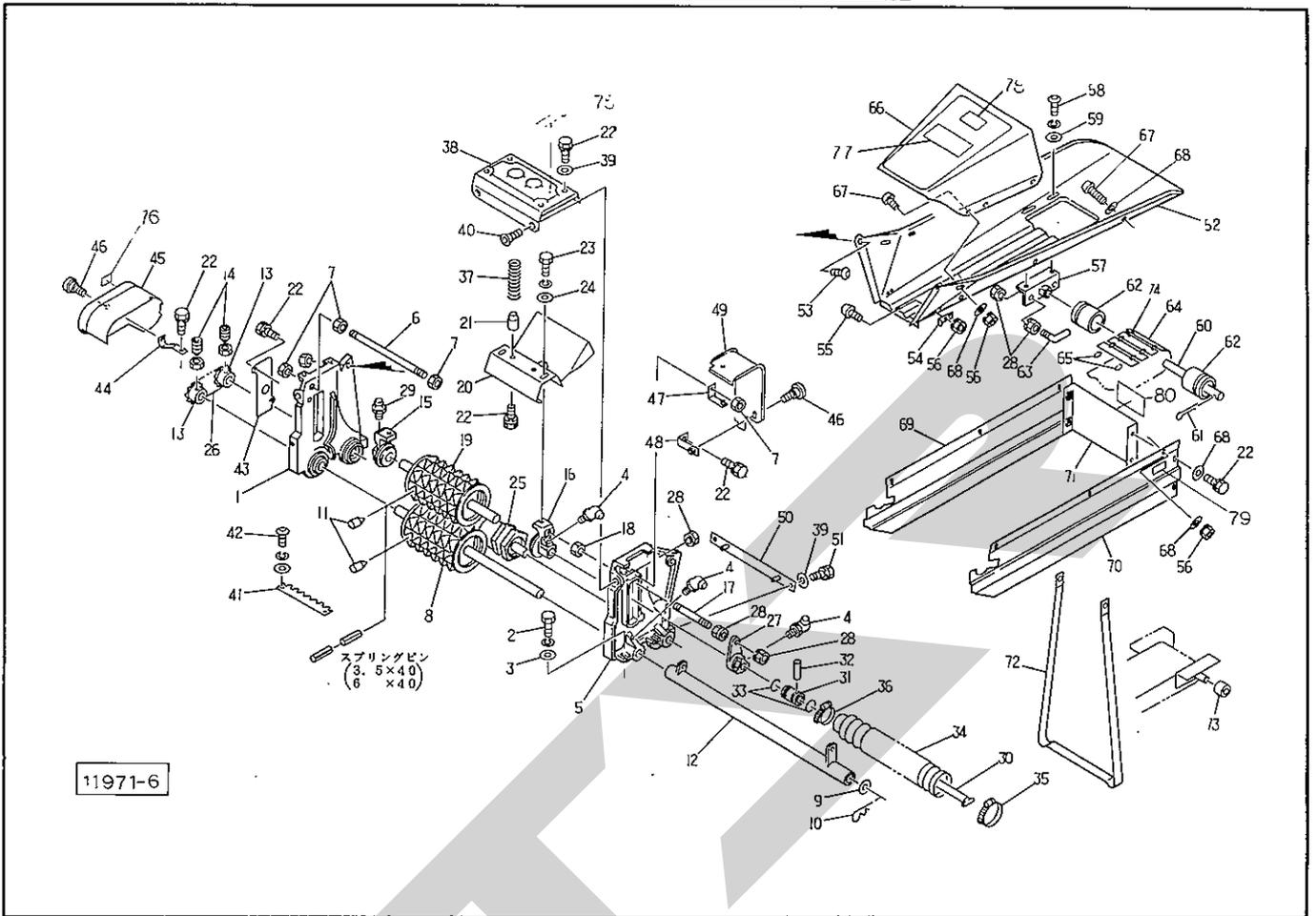
ロール・トイ・トイスタンド



品番	部品番号	部品名称	個数	品番	部品番号	部品名称	個数
1	91398	ガイドプレート; R	Ⓜ4付 1	26	LL4032	ローラチェーン; #40×32L	1
2	BZ1030WG	ボルト; M10×30(8.8)	4	27	91231	ジクウケ	Ⓜ4付 1
3	00355	ワッシャ; 10	4	28	NP08G	スプリングナット; M8	8
4	ONBS6	グリースニップル; B-M6×1F	6	29	ONAS6	グリースニップル; A-M6×1F	1
5	91399	ガイドプレート; L	Ⓜ4付 1	30	91223	ウエロールギヤジク	1
6	65557	ガイドプレートステー	Ⓜ7付 1	31	44870	カップリング	1
7	NZ10G	ナット; M10(8)	4	32	44871	カップリングピン	2
8	91215	シタロール	Ⓜ11付 1	33	FC0052	カップリングピンオサエバネ	2
9	WRA22G	ワッシャ; M22	1	34	91234	ブーツ	1
10	00088	ベータピン; 19×3	1	35	55379	ジザイクランプ; 90	1
11	65740	ナイロンボウ	8	36	00444	ジザイクランプ; 50	1
12	91388	パイプ	1	37	91334	スプリング	2
13	91235	スプロケット; 13T	Ⓜ14付 2	38	91332	ガイドカバー	1
14	MC1025NG	ロッククアナトメネジ; M10×25 トガリ	2	39	44097	ワッシャ; 8	6
15	99637	ウエロールジクウケ; R	Ⓜ4付 1	40	BJ0820G	ロッククアナナサラボルト; M8×20	2
16	99638	ウエロールジクウケ; L	Ⓜ4付 1	41	91226	スクレーパ	Ⓜ42付 1
17	91232	ボルト	1	42	RB0816PWG	ロッククアナボタンボルト; M8×16	2
18	NZ08G	ナット; M8(8)	1	43	91409	カバー; R	1
19	99633	ウエロール	Ⓜ11付 1	44	91415	ブラケット	1
20	91237	ウエロールカバー	1	45	91417	チェーンカバー	1
21	91335	ピン	2	46	00690	ニギリ; M8×14	2
22	BP0816G	スプリングボルト; M8×16	14	47	91411	ブラケット	1
23	BZ0820WG	ボルト; M8×20(8.8)	2	48	91410	ブラケット	1
24	00353	ワッシャ; 8	2	49	91416	カバー; L	1
25	91509	ゴカクシャジク	1	50	65571	スクレーパ(ゴカクシャ)	1

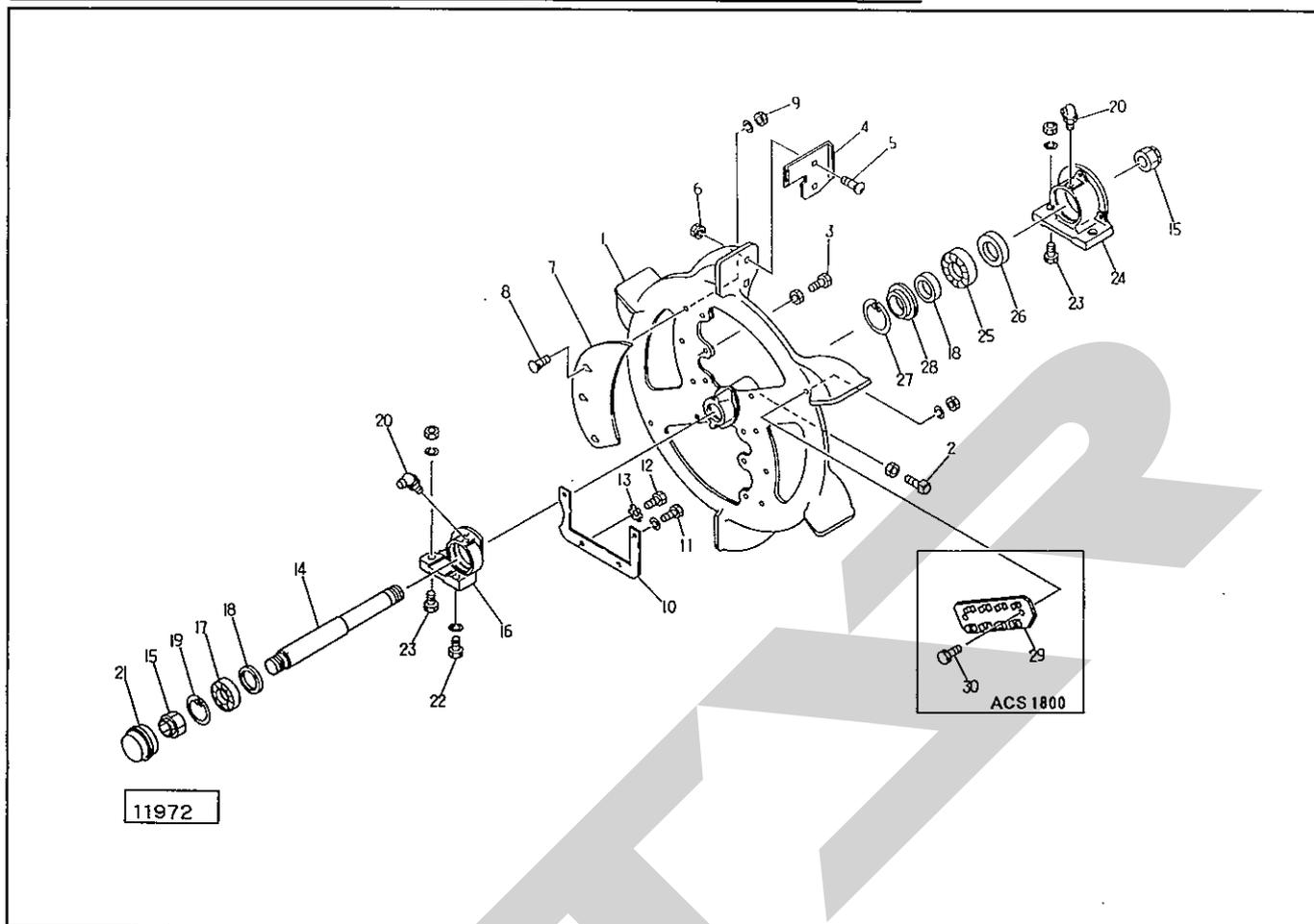
SFC1810・1830 飼料カッタ MFC1810・1830 マウントカッタ

ロール・トイ・トイスタンド



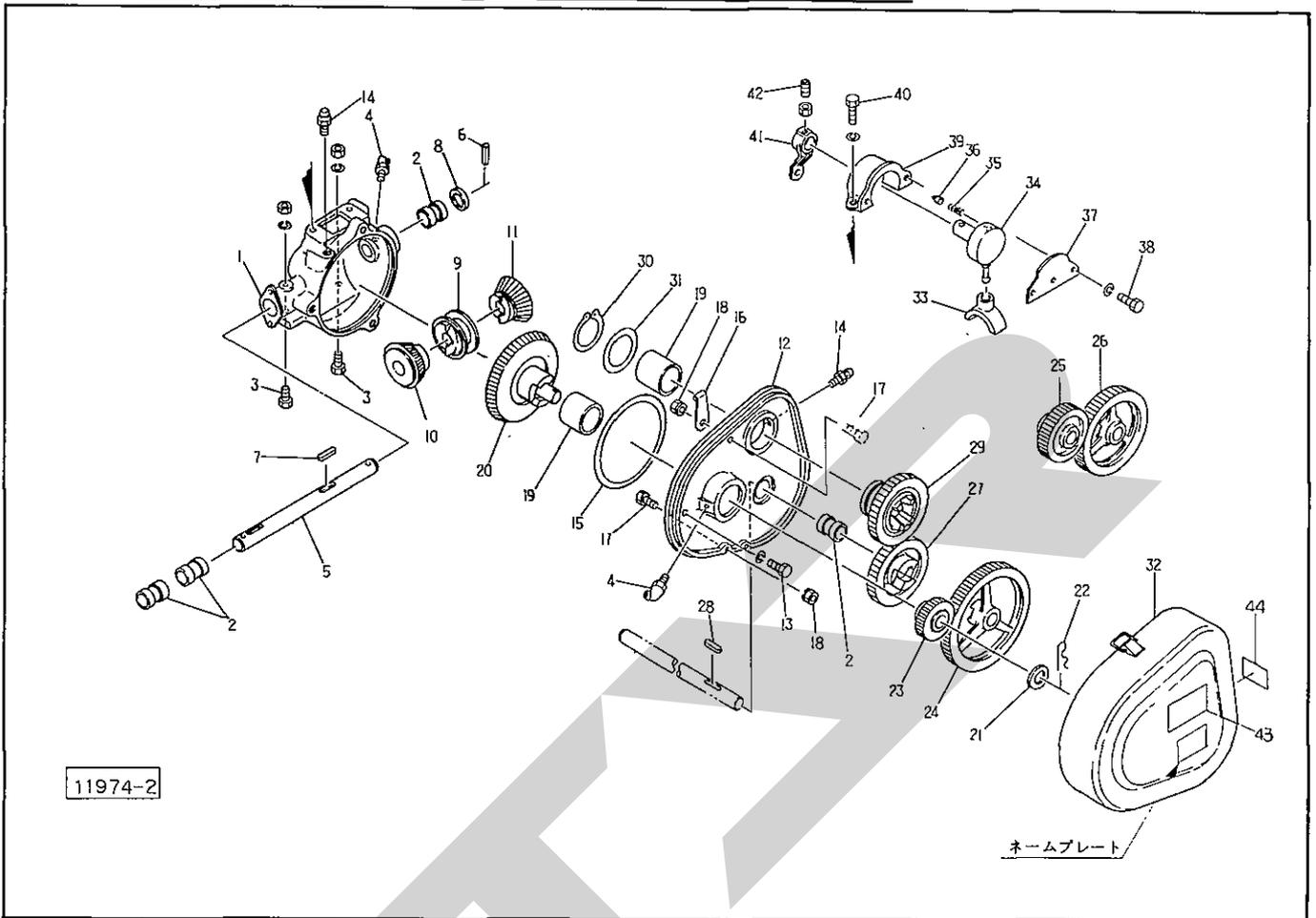
目録番号	部品番号	部品名称	個数	目録番号	部品番号	部品名称	個数
	51	BP 0820 G	2		76	ラベル; ケイコク 97	1
	52	91507	1		77	ラベル; ケイコク 1	1
	53	RB 1030 NG	2		78	ラベル; ケイコク 95	1
	54	91420	2		79	ラベル; ケイコク 98	1
	55	CP 0612 G	4	Asy	91507 Asy	トイ (クミ) ⑤52, 54~62, 72付	1
	56	NP 06 G	16	Asy	44870 Asy	カップリング (クミ) ⑤31, 32, 33付	1
	57	91513	2	Asy	65586 Asy	コンベヤ (クミ) ⑤64, 65, 74付	1
	58	RB 1020 WG	4	80	00935	ハンシャラベル; R-70100SQS MFC1810, 1830	1
	59	44098	4				
	60	91514	1				
	61	PC 4032 G	2				
	62	91515	2				
	63	65778	2				
	64	65586-1	37				
	65	00834	2				
	66	71228	1				
	67	CP 0616 G	12				
	68	WRA 08 G	22				
	69	91518	1				
	70	91519	1				
	71	91520	1				
	72	91524	1				
	73	45237	2				
	74	65586-2	72				
	75	SS-D-7305	1				

SFC1810・1830 飼料カッタ **MFC1810・1830 マウントカッタ**
フライホイール **ACS1800 コーンシュレッダアタッチメント(オプション)**



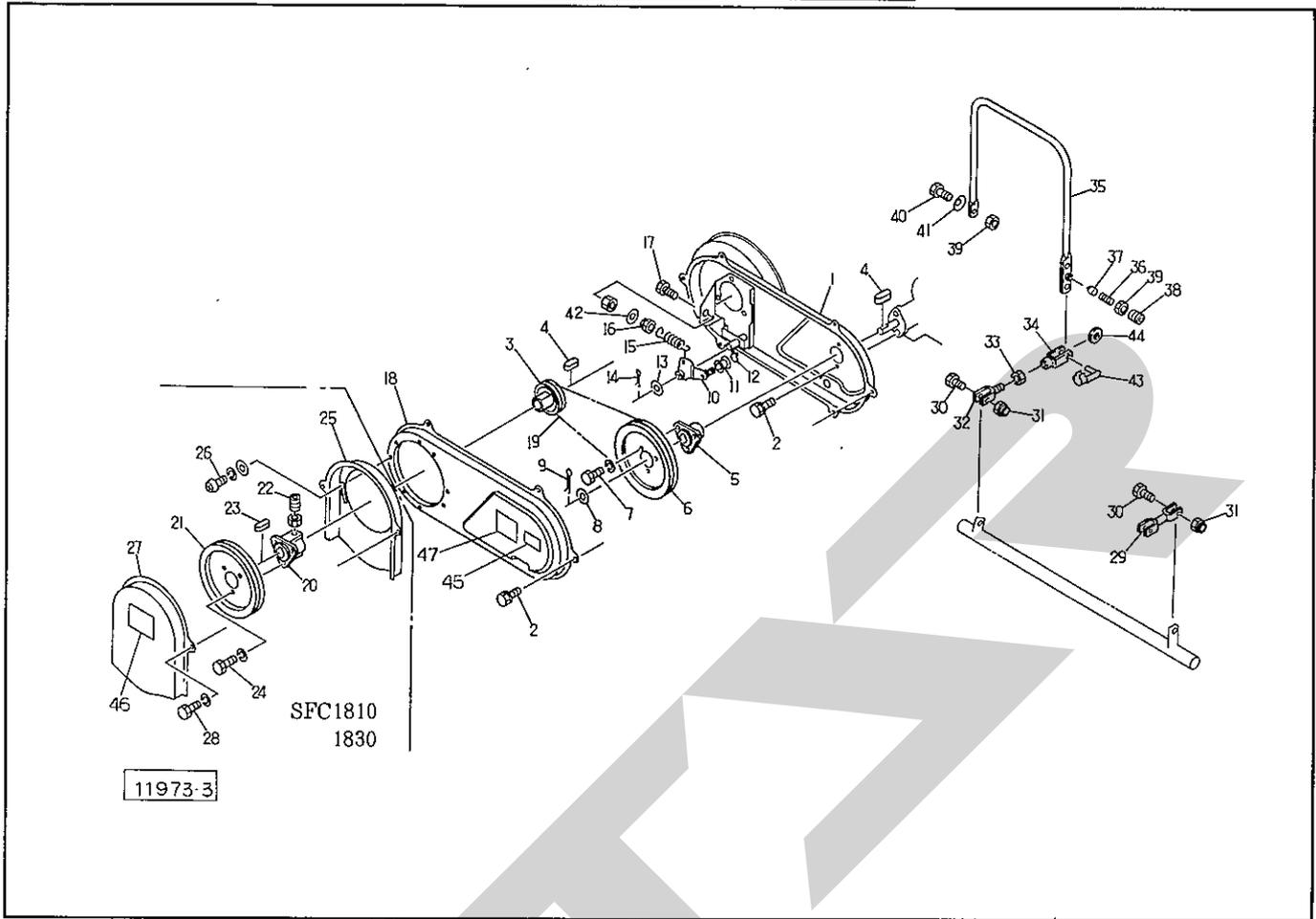
見番	出号	部品番号	部品名称	個数	見番	出号	部品番号	部品名称	個数
1		91201	フライホール	1	26		D 45629	オイルシール; D 45629	1
2		MA 1240NG	シカトメネジ; M12×40 トガリ	2	27		DHC 72	スナップリング; H 72	1
3		BAAZ1040NG	ボルト; M10×40(8.8)全ネジ	6	28		91207	カラー	1
4		91203	ブレード	6					
5		59483	カクネボルト; M8×25	12					
6		NP 08G	スプリングナット; M8	12	Asy		91201Asy	フライホール(クミ) ㊤1~6付	1
7		91208	ナイフ(カマバ) (2枚1組)	1組	Asy		91206Asy	ジクウケ(クミ) ㊤18、20、24~28付	1
8		83410	セツダンバトリツケボルト	6					
9		NZ10WG	ナット; M10(8)	6					
10		91210	ウケバ ㊤11~13付	1					
11		BZD0820WG	ボルト; M8×20(10.9)	2			ACS 1800	コーンシュレッダアタッチメント ※	
12		BZD0820G	ボルト; M8×20(10.9)	2	29		91860	コーンシュレッダ ※	2
13		TB 08G	ハツキサガネ; M8 ソトバ	2	30		BZ 1040 AG	ボルト; M10×40(8.8) ※	4
14		91204	シュジク ㊤15付	1					
15		78908	カシメロックナット; M30×1.5	2					
16		91205	ジクウケ ㊤20付	1					
17		J 6206LLU	ベアリング; 6206LLU	1					
18		G35506	オイルシール; G 35506	2					
19		DHC 62	スナップリング; H 62	1					
20		ONBS 6	グリースニップル; B-M6×1F	2					
21		00415	キャップ; 62	1					
22		BZ 1430WG	ボルト; M14×30(8.8)	1					
23		BZ 1445AG	ボルト; M14×45(8.8)	3					
24		91206	ジクウケ ㊤20付	1					
25		J 6306	ベアリング; 6306	1					

SFC1810・1830 飼料カッタ MFC1810・1830 マウントカッタ ギヤボックス



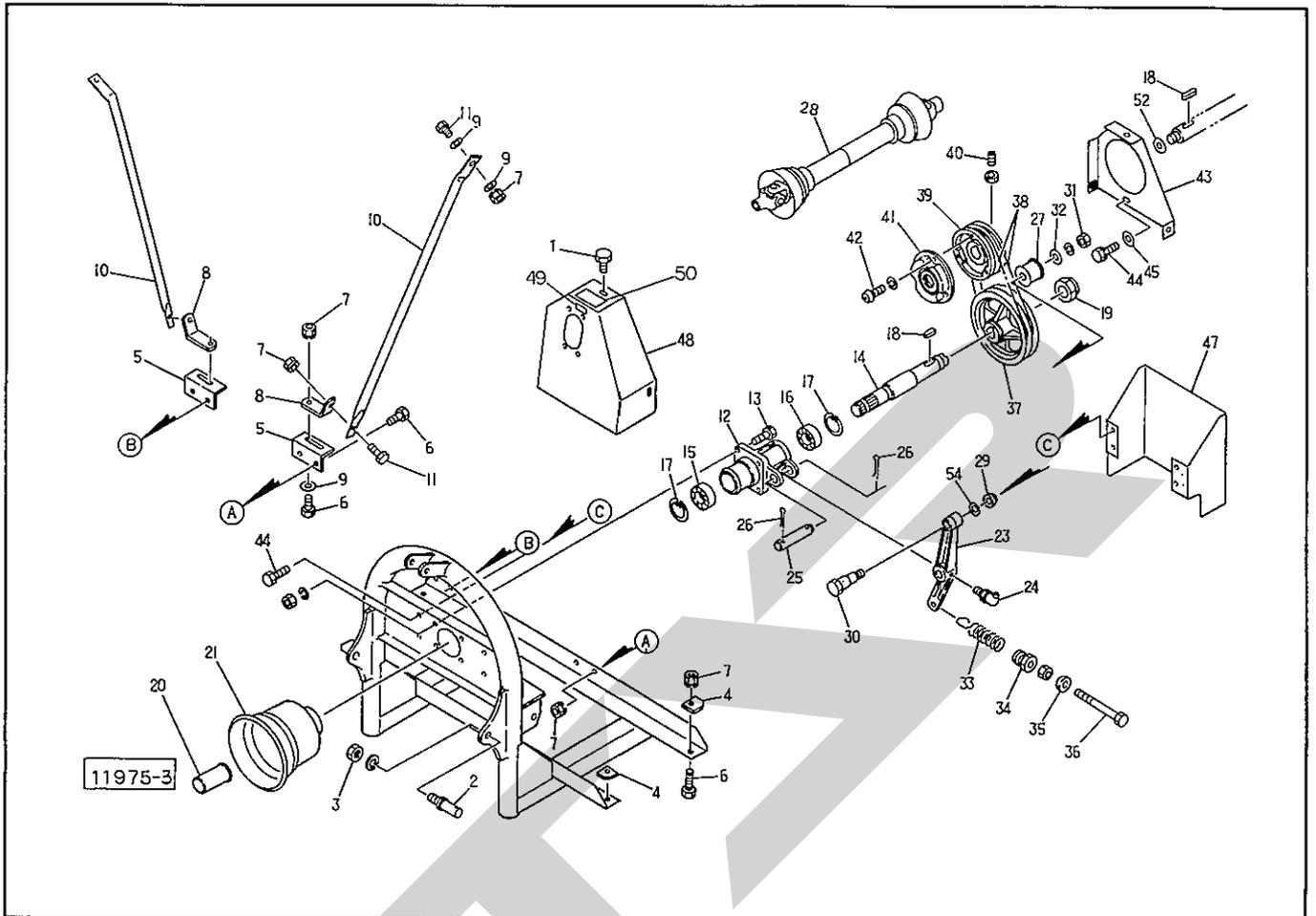
見 番 号	部品番号	部 品 名 称	個数	見 番 号	部品番号	部 品 名 称	個数
1	91187	ギヤボックス (Ⓜ) 2,4,14付	1	26	91170	カエハグルマ; 31 T	1
2	91197	ブッシュ; 22.2×30	4	27	91166	シタロールハグルマ; 17 T	1
3	BZ1240AG	ボルト; M 12×40 (8.8)	2	28	KFC08070250	+-; 8×7×25 両丸	1
4	ONBS 6	グリースニップル; B-M 6×1 F	2	29	91165	ウエロールハグルマ; 17 T	1
5	91190	クラッチジク	1	30	DC 55	スナップリング; S 55	1
6	PS 5032	スプリングピン; 5×32	1	31	65762	ワッシャ (ウエロールギヤ)	1
7	KFC08070400	+-; 8×7×40 両丸	1	32	91189	ギヤケース	1
8	91198	ワッシャ; 22.5×3.2	1	33	91164	クラッチシュー	1
9	91163	クラッチ	1	34	91193	レバーセンター	1
10	91160	ベベルピニオン F; 12 T	1	35	16703	ノッチスプリング	2
11	91161	ベベルピニオン RE; 12 T	1	36	16702	ノッチボール	2
12	91188	レンゴウジクウケ (Ⓜ) 2,4,14,16~18付	1	37	16698	ホルダーキャップ	1
13	BZ1025WG	ボルト; M 10×25 (8.8)	3	38	BZ0612WG	ボルト; M 6×12 (8.8)	2
14	ONAS 6	グリースニップル; A-M 6×1 F	4	39	91192	レバーホルダー	1
15	91195	パッキン	1	40	BZ0825WG	ボルト; M 8×25 (8.8)	2
16	23653	ビジョウカケ	1	41	91194	アーム (Ⓜ) 42付	1
17	BZ0620G	ボルト; M 6×20 (8.8)	3	42	MD0825 NG	ロッククアナトメネジ; M 8×25 クボミ	1
18	NP 06 G	スプリングナット; M 6	4	43	91656	ラベル; セツダンナガサ	1
19	71219	ジクウケ	2	44	106510	ラベル; ケイコク 96	1
20	91191	ベベルホイール; 26 T	1				
21	WRA 22 G	ワッシャ; M 22	1				
22	00088	ベータピン; 19×3	1				
23	91167	カエハグルマ; 13 T	1				
24	91168	カエハグルマ; 38 T	1				
25	91169	カエハグルマ; 20 T	1				

SFC1810・1830 飼料カッタ MFC1810・1830 マウントカッタ プーリカバー・クドウプーリ・クラッチレバー



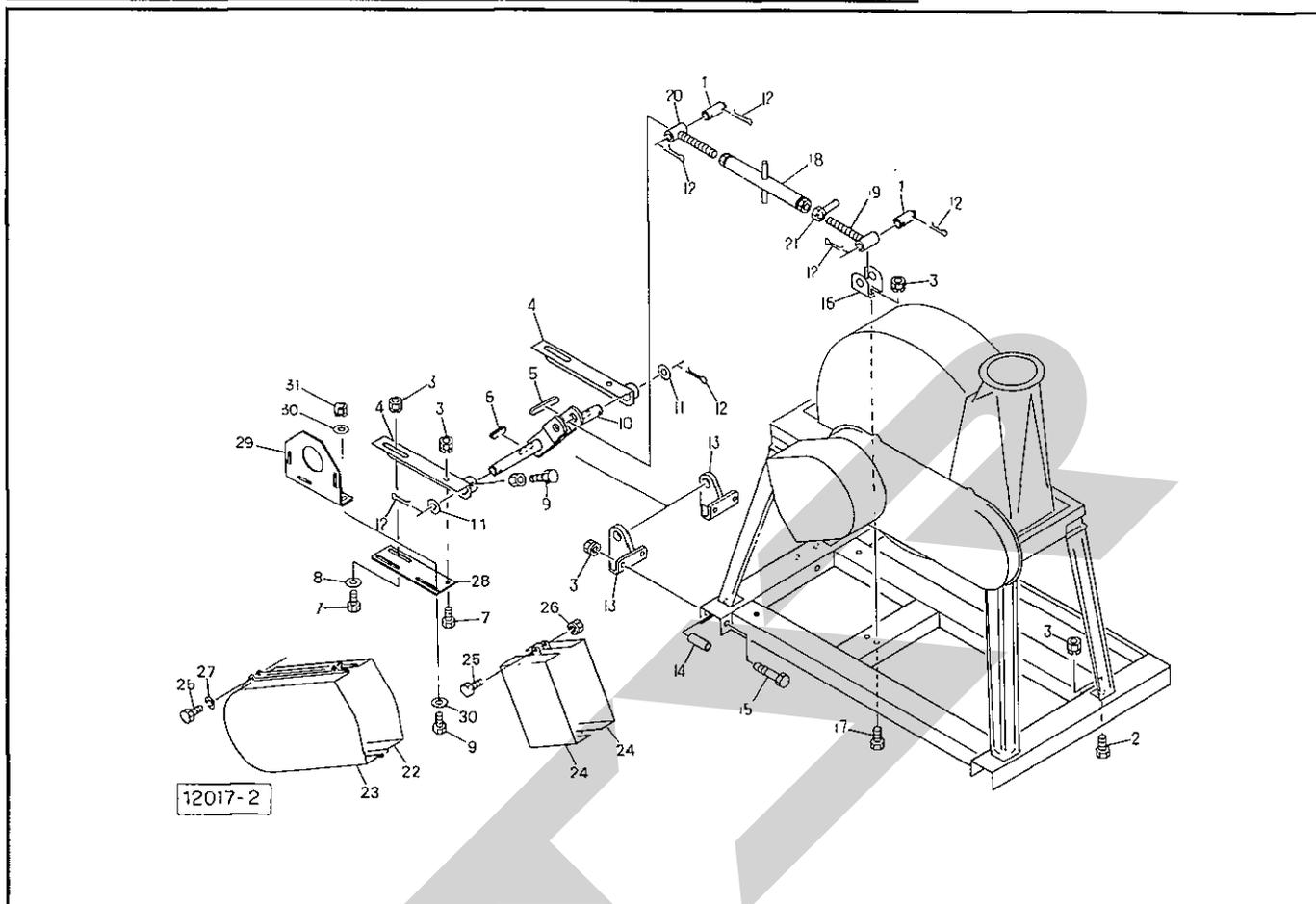
見 番 号	部 品 番 号	部 品 名 称	個 数	見 番 号	部 品 番 号	部 品 名 称	個 数
1	91251	カバー; F	1	26	CP 0812PWG	ナベコネジ; M8×12 SFC1810、1830	3
2	BP 0816G	スプリングボルト; M8×16	11	27	89552	プーリカバー; 2 SFC1810、1830	1
3	91212	Vプーリ; φ88-A2	1	28	BZ 0612WG	ボルト; M6×12(8.8)SFC1810、1830	2
4	KFC08070350	キー; 8×7×35両丸	2	29	91392	ロッド; B	1
5	91200	プーリボス (Ⓢ 22付)	1	30	BZ 0830G	ボルト; M8×30(8.8)	3
6	91199	Vプーリ; 8"-A2	1	31	NN08G	ナイロンナット; M8	3
7	BZ 0816WG	ボルト; M8×16(8.8)	3	32	91395	ロッド; A (Ⓢ 33付)	1
8	WRA 22G	ワッシャ; M22	1	33	NZ 08G	ナット; M8(8)	1
9	PC 5036G	ワリピン; 5×36	1	34	79422	フォークエンド; 10×40	1
10	91259	テンション	1	35	92957	レバー	1
11	00693	テンションプーリ	1	36	16703	ノッチスプリング	1
12	DC 15	スナップリング; S 15	1	37	16702	ノッチボール	1
13	77693	ワッシャ; 17	1	38	MD 1016G	ロッククアナトメナジ; M10×16クボミ	1
14	PC 4025G	ワリピン; 4×25	1	39	NZ 10G	ナット; M10(8)	3
15	79302	スプリング	1	40	BZ 1030G	ボルト; M10×30(8.8)	2
16	79301	ホルダ	1	41	WC 10G	サラワッシャ; M10	2
17	BAAZ0870NG	ボルト; M8×70(8.8) 全ネジ	1	42	WRA 08G	ワッシャ; M8	1
18	91250	カバー; RE	1	43	79423	ピン; 10×40	1
19	VA51	Vベルト; A-51	2	44	44098	ワッシャ; 10	1
20	91214	プーリボス (Ⓢ 22付) SFC 1810、1830	1	45	91659	ラベル; 800~850 SFC1810、1830	1
21	81298	Vプーリ; 8"-B2 SFC 1810、1830	1	46	106513	ラベル; ケイコク 99 SFC1810、1830	1
22	MD 0825NG	ロッククアナトメナジ; M8×25クボミ; SFC1810、1830	1	47	106513	ラベル; ケイコク 99	1
23	KFC08070350	キー; 8×7×35両丸 SFC 1810、1830	1				
24	BZ 0816WG	ボルト; M8×16(8.8) SFC 1810、1830	3				
25	89551	プーリカバー; 1 SFC 1810、1830	1				

MFC1810・1830 マウントカッタ フレーム・クドウブ



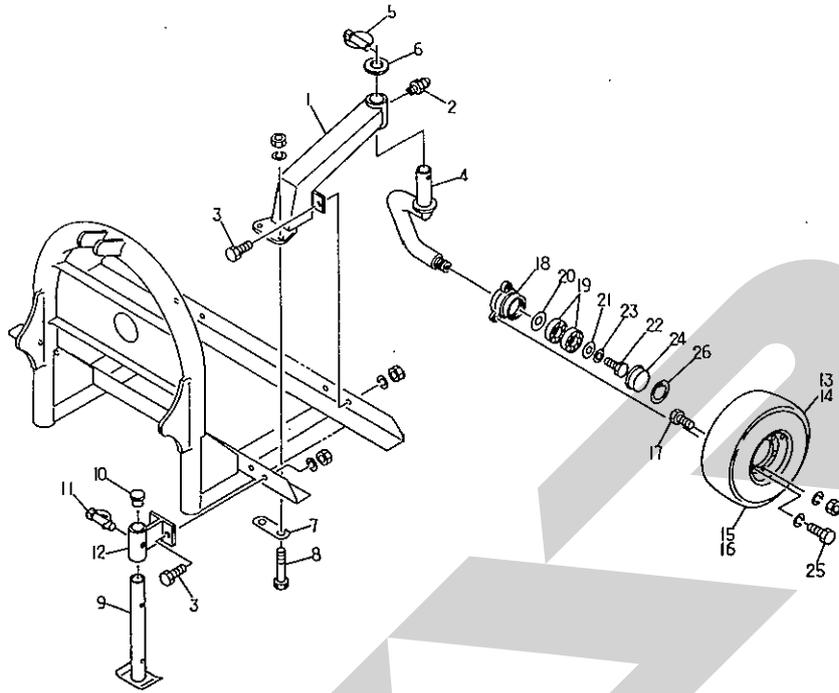
目録 番号	部品番号	部 品 名 称	個数	目録 番号	部品番号	部 品 名 称	個数
1	00690	ニギリ; M8×14	3	26	PC4032G	ワリピン; 4×32	2
2	00006	ローリンクピン; O・I	Ⓢ 3付	27	00693	テンションプーリ	1
3	NA 22150WG	ナット; M22×1.5	2	28	JSE040ASY	ジョイント クミ SE-40	1
4	91641	プレート	4	29	91646	カラー	1
5	91529	アングル	2	30	91647	ボルト	Ⓢ 31付
6	BZ 1030 G	ボルト; M10×30 (8.8)	10	31	NZ 12WG	ナット; M12 (8)	1
7	NP 10G	スプリングナット; M10	14	32	42783	ワッシャ; 12	1
8	91530	アングル	2	33	91648	スプリング	1
9	44098	ワッシャ; 10	6	34	70286	スプリングホルダ	1
10	91527	ステー	2	35	25266	キューメンザガネ	1
11	BZ 1025 G	ボルト; M10×25 (8.8)	4	36	BZA 12130NG	ボルト; M12×130 (8.8)全ネジ	1
12	91245	ジクウケ	1	37	91239	Vプーリ; φ214-B2	1
13	BZ 1030 AG	ボルト; M10×30(8.8)	4	38	VRB41	Vベルト; B-41 (レッド)	2
14	102048	PICシャフト	1	39	91240	Vプーリ; φ146-B2	Ⓢ 40付
15	J 6007LLU	ベアリング; 6007LLU	1	40	MD0825NG	ロックアアトメネジ; M8×25 クボミ	1
16	J 6206LLU	ベアリング; 6206LLU	1	41	45223	カイテンゲイ	1
17	DHC 62	スナッピング; H 62	2	42	CP 0512WG	ナベコネジ; M5×0.8×12	3
18	KFC08070350	キー; 8×7×35 両丸	2	43	91649	ブラケット	1
19	78908	カシメロックナット; M30×1.5	1	44	BP 0816G	スプリングボルト; M8×16	7
20	00096	PICキャップ; 35	1	45	44097	ワッシャ; 8	3
21	00823	PICカバー; I	1				
				47	92951	カバー	1
23	91243	テンションアーム	Ⓢ 24、54付	48	91652	カバー	1
24	ONBS 6	グリースニップル; B-M6×1F	1	49	88978	ラベル; 500~540	1
25	91642	ピン	Ⓢ 26付	50	106513	ラベル; ケイコク 99	1

AMD2310 モータベースアタッチメント オプション



品番	部品番号	部品名称	個数	品番	部品番号	部品名称	個数
1	77516	ピン	2	26	NP06	スプリングナット M6	6
2	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	4	27	WS06	バネザガネ 2ゴウ M6	4
3	NSP10	コガタスパックナット 4 M10	18	28	1184970004	プレート	1
4	0921840004	ブラケットCP	2	29	1184980004	アングル	1
5	KFC08071000	ヘイコウキー リョウマル 8×7×100	1	30	080414100M	ワッシャ; 8	8
6	KFC08070550	ヘイコウキー リョウマル 8×7×55	1	31	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	4
7	BSZ10040	コガタボルト 7 M10×40	4				
8	044098000M	ワッシャ; 10	2				
9	BSZ08025	コガタボルト 7 M8×25	6				
10	092185000M	アームCP	1				
11	WRA24	ヒラサガネ M24	2				
12	PC050036	ワリピン 5×36	6				
13	092186000M	ブラケットCP	2				
14	092187100M	カラー; 12 7×68	4				
15	BSZ10100	コガタボルト 7 M10×100	4				
16	092188000M	チャンネル	1				
17	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	2				
18	092189000M	ハンドルCP	1				
19	092190000M	ボルトCP; R	1				
20	092191000M	ボルトCP; L	1				
21	083681000M	ロックナットCP	1				
22	1184960003	プーリカバー-CP; 1	1				
23	0443031003	プーリカバー	1				
24	1185020003	カバー	2				
25	BZ06016	ボルト 8.8 M6×16	10				

ASW3000 サポートホイールアタッチメント オプション



12016

見番 番号	部品番号	部品名称	個数	見番 番号	部品番号	部品名称	個数
1	92174	シャジクアーム	2	26	DHC52	スナップリング; H 52	2
2	ONAS 6	グリースニップル; A・M6×1 F	2				
3	BZ1235AG	ボルト; M 12×35 (8.8)	8				
4	92175	シャジク	2				
5	00739	リンチピン; 9	2				
6	92221	ワッシャ; 36×6	2				
7	92176	プレート	2				
8	BZ12100AG	ボルト; M 12×100 (8.8)	4				
9	00701	スタンド; 250	2				
10	00458	キャップ; 29	2				
11	00453	デルタピン; 9	2				
12	92177	ブラケット	2				
13	00506	タイヤ; 11×4.00-5-4 PR	2				
14	00507	チューブ; 11×4.00-5	2				
15	43688	ホイール; 3.00 SP×5 DT	2				
16	43689	ホイール(ハブ穴付); 3.00 SP×5 DT	2				
17	BZ0816AG	ボルト; M 8×16 (8.8)	6				
18	44058	ハブ	2				
19	6205 LLU	ベアリング; 6205 LLU	4				
20	60807	ワッシャ	2				
21	66580	ワッシャ; 10	2				
22	BZ 1020 G	ボルト; M 10×20 (8.8)	2				
23	TB 10 G	ツースワッシャ; M 10 外歯形	2				
24	43827	キャップ	2				
25	BZ0816WG	ボルト; M 8×16 (8.8)	6				

型式・仕様について

型 式

お買い上げいただきました飼料カッタ型式SFC1810、SFC1830、マウントカッタ型式MFC1810、MFC1830は、いずれも安全鑑定型式 スターSFC18 で安全鑑定に合格しており、この内容で本機に銘板を貼付しています。

安全鑑定型式	当 社 型 式 (区分)		仕 様
スターSFC18	飼カ ツ 料 タ	SFC1810	カ ラ ー
		SFC1830	ス テ ン レ ス
	マカ ウ ン ト タ	MFC1810	カ ラ ー
		MFC1830	ス テ ン レ ス

仕 様

型 式	SFC1810・1830	MFC1810・1830
名 称	飼料カッタ (18cm)	マウントカッタ (18cm)
駆 動 方 法	エンジン又は電動機	トラクタPTO
所 要 馬 力	2.5～7PS (2.2～3.7kW)	—
適 応 ト ラ ク タ	—	15～25PS(注1)、3点リンク直装(カテゴリI)
吹 上 げ 排 出 口 径	135mm	135mm
常 用 回 転 数	800rpm (主軸)	540rpm (PTO)
切 断 長 さ	10mm、20mm、45mm、60mm	
吹 上 げ 能 力	最大10m (注2)	
切 断 能 力	最大5,000kg/Hr (切断長さ20mm、水分85%、デントコーン切断の場合) 最大 900kg/Hr (切断長さ20mm、水分15%、稲ワラ切断の場合)	

注1. 適応トラクタは、マウントカッタを直装できるトラクタの範囲を表すもので、所要馬力に相当するものではありません。カッタのさい断に必要とする馬力は2.5～7PSです。

注2. 吹上げ能力はデントコーン切断によるもので牧草切断の場合、最大値の50～70%になります。

SFAA

調 整

S-010529S

本 社 066-8555 千歳市上長都1061番地2
TEL 0123-26-1123
FAX 0123-26-2412

千歳営業所 066-8555 千歳市上長都1061番地2
TEL 0123-22-5131
FAX 0123-26-2035

旭川営業所 070-8004 旭川市神楽4条9丁目3番35号
TEL 0166-61-6131
FAX 0166-62-8985

豊富営業所 098-4100 天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地
TEL 0162-82-1932
FAX 0162-82-1696

帯広営業所 080-2462 帯広市西22条北1丁目12番地
TEL 0155-37-3080
FAX 0155-37-5187

北見営業所 090-0001 北見市小泉302
TEL 0157-24-3880
FAX 0157-61-1344

中標津営業所 086-1152 標津郡中標津町北町2丁目16番2
TEL 01537-2-2624
FAX 01537-3-2540

花巻営業所 025-0312 岩手県花巻市二枚橋第三地割333-1
TEL 0198-26-5741
FAX 0198-26-5746

仙台営業所 985-0845 宮城県多賀城市町前2丁目4番27号
TEL 022-367-4573
FAX 022-367-4846

小山営業所 323-0158 栃木県小山市梁2512-1
TEL 0285-49-1500
FAX 0285-49-1560

名古屋営業所 480-0102 愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191
TEL 0587-93-6888
FAX 0587-93-5416

松本出張所 399-0033 長野県松本市大字笹賀5824-5
TEL 0263-26-5731
FAX 0263-26-5761

岡山営業所 700-0973 岡山県岡山市下中野704-103
TEL 086-243-1147
FAX 086-243-1269

熊本営業所 862-0939 熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号
TEL 096-381-7222
FAX 096-384-3525

都城営業所 885-0004 宮崎県都城市都北町3537-1
TEL 0986-38-1045
FAX 0986-38-4644